浅野誠

庭畑

2019～2020年

私のブログ「沖縄南城・人生創造・浅野誠」の２～３割を占めるのは、我が庭畑の記事だ。それを編集して小冊子を作製している。今回は２０１９～２０２０年の記事だ。

その記事のほとんどを占めるのは、「我が庭畑の自然」３５回、「わが庭畑の自慢」５５回、「自然と人間、そして私」７回（さらに７回ほどの記事があるが、しばらく後に編集発行する「自然」シリーズに収録する予定）の３連載だ。

２０２２年２月作成

目次

※　項目冒頭の年月日はブログ掲載日だ。目次配列は、ブログ掲載日順である。

2020 年 12 月 31 日　観葉植物５　オオタニワタリ　スパティフィルム　タマシダ　フィロデンドロン　我が庭畑の自然３５
2020 年 12 月 26 日　観葉植物４　トックリラン　パキラ　シェフレラ　我が庭畑の自然３４
2020 年 12 月 21 日　観葉植物３　ドラセナの仲間　我が庭畑の自然３３
2020 年 12 月 16 日　観葉植物２　樹木タイプで大きいもの　デュランタ類　ヤシ類　我が庭畑の自然３２
2020 年 12 月 11 日　観葉植物１　ヤリノホクリハラン　クワズイモ　ゲッキツ　千年木・・・　この地域に自生しているもの　我が庭畑の自然３１
2020 年 12 月 06 日　薬草　長命草　防虫袋　我が庭畑の自然３０
2020 年 11 月 28 日　ベランダのハーブ・花・樹木　我が庭畑の自然２９
2020 年 11 月 23 日　野菜づくりの中心を畑からベランダへ移す　我が庭畑の自然２８
2020 年 11 月 18 日　池づくり２　グッピー育て　ビオトープは諦める　我が庭畑の自然２７
2020 年 11 月 13 日　池づくり１　大池と小池　我が庭畑の自然２６
2020 年 11 月 08 日　芝生はがし　花園などつくる　我が庭畑の自然２５
2020 年 11 月 03 日　らせん型ハーブ園　我が庭畑の自然２４
2020 年 10 月 27 日　タイム　ペパーミント　レモングラス　我が庭畑の自然２３
2020 年 10 月 22 日　野菜ハーブ　ルッコラ　パクチー　チャービルなど　我が庭畑の自然２２
2020 年 10 月 17 日　ローレル、オレンジバームなど、オレガノ、バジル類、ローズマリー、ベチパー　我が庭畑の自然２１
2020 年 10 月 12 日　繁殖し過ぎのハーブ　バナナミント　アップルミント　チェリーセージ　我が庭畑の自然２０
2020 年 10 月 07 日　１００種のハーブ育て実験と４０種のハーブの定着　メキシカン・スイート・ハーブ　クールミント　我が庭畑の自然１９
2020 年 10 月 02 日　果樹園化　バンシルー　パパイヤ　シークァーサー　など　我が庭畑の自然１８
2020 年 09 月 26 日　果樹園化　インドナツメ　パッションフルーツ　我が庭畑の自然１７
2020 年 09 月 21 日　ウリズン豆大量収穫　　我が庭畑の自然１６
2020 年 09 月 16 日　果樹園化　カニステル　バナナ　我が庭畑の自然１５
2020 年 09 月 11 日　果樹園化　ビワ　アセローラ　ピタンガ　我が庭畑の自然１４
2020 年 09 月 06 日　果樹園化　マンゴー　ライチ　我が庭畑の自然１３
2020 年 08 月 27 日　グランドカバー　オオタニワタリ　リュウゼツラン　トックリラン　我が庭畑の自然１２
2020 年 08 月 22 日　縁取り　タマリュウ　植種ごとの地面の占有率　　我が庭畑の自然１１
2020 年 08 月 17 日　中庭の観葉植物類・グランドカバー　オリズルラン　　我が庭畑の自然１０
2020 年 08 月 12 日　中庭　トックリヤシモドキ　我が庭畑の自然９
2020 年 08 月 07 日　庭畑への通路　　我が庭畑の自然８
2020 年 08 月 02 日　通路づくり　千年木　ブーゲンビリア　我が庭畑の自然７
2020 年 07 月 28 日　土質　不耕起　土の有機化への試行錯誤　　我が庭畑の自然６
2020 年 07 月 23 日　オオジョロウグモ　オスとメス　我が庭畑の自然５

2020年07月18日　土地の歴史と自然環境　　我が庭畑の自然４
2020年07月13日　酷暑の夜に開花し、美味しい実をつけるドラゴンフルーツ　　我が庭畑の自然３
2020年07月08日　１６年前の庭畑つくりスタートのころ　　我が庭畑の自然２
2020年07月03日　わが庭畑と私　「我が庭畑の自然」随想連載スタート
2020年06月24日　最終回　わが庭畑の自慢５５
2020年06月20日　パッションフルーツ　わが庭畑の自慢５４
2020年06月16日　バナナ　わが庭畑の自慢５３
2020年06月12日　ネギ、ニラ、シマラッキョウ　わが庭畑の自慢５２
2020年06月08日　ライチ(レイシ)　　わが庭畑の自慢５１
2020年06月04日　アセローラ　わが庭畑の自慢５０
2020年05月31日　ソテツ　わが庭畑の自慢４９
2020年05月27日　月桃（サンニン）　わが庭畑の自慢４８
2020年05月22日　ハンギング・ヘリクニア　わが庭畑の自慢４７
2020年05月17日　ピタンガ　わが庭畑の自慢４６
2020年05月12日　ティートリー　わが庭畑の自慢４５
2020年05月08日　ナゴラン　　わが庭畑の自慢４４
2020年04月30日　スパテフィルム　わが庭畑の自慢４３
2020年04月26日　オクラレルカ　わが庭畑の自慢４２
2020年04月22日　テイカカズラ　わが庭畑の自慢４１
2020年04月18日　ミツバ　　わが庭畑の自慢４０
2020年04月14日　アマリリス　わが庭畑の自慢３９
2020年04月10日　インドナツメ　わが庭畑の自慢３８
2020年04月07日　ブーゲンビリア　わが庭畑の自慢３７
2020年04月02日　シャリンバイ　　わが庭畑の自慢３６
2020年03月28日　ビワ　９９％鳥に食べられる　わが庭畑の自慢３５
2020年03月21日　崎原さんのすごい自然農　たくさんの塾生
2020年03月20日　カクチョウラン　わが庭畑の自慢３４
2020年03月15日　春めいてきたわが庭畑　コーヒー開花　レースラベンダー　カクチョウラン　食べられたビワなど
2020年03月14日　ひはつ（ピパーツ）　わが庭畑の自慢３３
2020年03月08日　メイフラワー　わが庭畑の自慢３２
2020年03月02日　チャービル（セルフィーユ）　　わが庭畑の自慢３１
2020年02月25日　コリアンダー（パクチー）　わが庭畑の自慢３０
2020年02月19日　ヤリノホクリハラン　わが庭畑の自慢２９
2020年02月14日　シュロガヤツリ　　わが庭畑の自慢２８
2020年02月09日　セイロンベンケイ　わが庭畑の自慢２７
2020年02月03日　オオゴマダラ　わが庭畑の自慢２６
2020年01月30日　千年木　わが庭畑の自慢２５
2020年01月25日　ルッコラ　　わが庭畑の自慢２４

2020年01月20日　カニステル　わが庭畑の自慢２３
2020年01月13日　着生ラン　カトレア　わが庭畑の自慢２２
2020年01月11日　庭畑作業の大きな変化　簡略化へ
2020年01月08日　コモンバジル　ホーリーバジル　わが庭畑の自慢２１
2019年12月31日　ワサビナ　わが庭畑の自慢２０
2019年12月23日　オオタニワタリ　　わが庭畑の自慢１９
2019年12月15日　サンセベリア　わが庭畑の自慢１８
2019年12月07日　クロトン　　わが庭畑の自慢１７
2019年11月28日　オリズルラン　　わが庭畑の自慢１６
2019年11月18日　通路とタマリュウ　わが庭畑の自慢１５
2019年11月06日　ブラジル・ホウレンソウ　タリヌム・フルティコスム　わが庭畑の自慢１４
2019年10月30日　コーヒーの木　わが庭畑の自慢１３
2019年10月23日　ドラゴンフルーツ　わが庭畑の自慢１２
2019年10月13日　ホウライカガミ　わが庭畑の自慢１１
2019年10月03日　ミルクブッシュ　わが庭畑自慢１０
2019年09月24日　トックリヤシモドキ　わが庭畑自慢９
2019年09月18日　ルッコラ　わが庭畑自慢８
2019年09月09日　雲南百薬　わが庭畑自慢７
2019年09月03日　モロヘイヤ　わが庭畑自慢６
2019年08月26日　ウリズンマメ（リュウキュウシカクマメ）　わが庭畑の自慢５
2019年08月20日　ハイビスカス（アカバナ）類　わが庭畑の自慢４
2019年08月12日　タイワンレンギョウ（デュランタ、ハリマツリ）　我が庭畑自慢３
2019年08月06日　サガリバナ（サワフジ）　わが庭畑の自慢２
2019年07月29日　ラクティア（マハラジャ）　わが庭畑の自慢（ブログ「オープンガーデン」）１
2019年07月11日　ドラゴンフルーツ
2019年05月21日　夏野菜へ　シマラッキョウ　ニラ　ネギ　サラダ菜　チマサンチェ　シソ　などなど
2019年04月30日　植物を殖やす　挿し木　こぼれ種　株分け
2019年04月26日　ピタンガ大収穫
2019年04月11日　わが庭畑の将来大きくなりそうな木、そして低木　「自然と人間、そして私」１５
2019年04月04日　わが庭畑の「中くらい」の大きさの樹木　「自然と人間、そして私」１４
2019年03月28日　我が敷地内の大きな樹木　「自然と人間、そして私」１３
2019年03月21日　亜熱帯雨林の我が敷地内外の樹木　「自然と人間、そして私」１２
2019年03月14日　授粉　苦戦話　果物育て３　「自然と人間、そして私」１１
2019年03月07日　果物育て２　マンゴー　日当たり　剪定　「自然と人間、そして私」１０
2019年02月28日　果物育て１　在来種　酸性土　「自然と人間、そして私」９
2019年01月22日　減少した庭畑作業の再開へ　果樹事情

※「自然と人間、そして私」の１～８は、「自然」カテゴリーで編集掲載の予定。

2020 年 12 月 31 日

観葉植物５　オオタニワタリ　スパティフィルム　タマシダ　フィロデンドロン　我が庭畑の自然３５

今回は、地上近くで広がり、日陰でも育つもの。大きな木の根元近くでも育つ。

アスプレニウム（オオタニワタリ）　（写真）

近隣の人と植物交換して、植えたものだ。順調に育つだけでなく、胞子をとばして、どんどん広がる。思わぬところから芽を出すことがある。通路から、別の木の幹から。胞子だから、着地すれば場所を選ばず芽を出すという感じだ。地上に栄養分がなくても育つ感じだ。

今や、数十にもなるだろうが、広さ１メートルを超えるものも多い。発芽して十年近くたつと、黒っぽい幹のようなものができる。そこに苔などがついて、亜熱帯森林の雰囲気を醸し出す。ほっておくと、オオタニワタリ天国になりそうだ。

スパティフィルム

水芭蕉に似た白く美しい花を咲かせる。いただいた株が定着したので、株分けで現在３株育てている。

ネフロレピス（タマシダ）

美しいのだが、殖え過ぎるので、頭を抱えている。一年で１０倍に広がる感じだ。だから、９割は取っている。多分、胞子で広がるのだろう。

フィロデンドロン（ライム）

薄緑の葉が美しい。空港通路脇に置かれているのをよく見かける。我が家でも、何か所かに植えている。ポトスに似ているが、ポトスよりはるかに上品だ。じっくりと育てている。

植えた当初、名前を間違えてブログ掲載したが、専門家に間違いを直していただいた。感謝である。

2020 年 12 月 26 日

観葉植物４　トックリラン　パキラ　シェフレラ　我が庭畑の自然３４

今回は、私自身が比較的最近買ってきた苗を植えたものだ。今後の生育を楽しみにしている。

トックリラン（ノリナ）　（次ページ写真）

知人の庭に巨大なものがあるが、このブログでも紹介した。巨大な徳利状の幹？がとても素敵なので、苗店で見つけ

て、すぐに買って植えた。２本植えているが、現在は日照が強くない場所だ。そのうち伸びて日照条件がよくなれば、ぐんぐん伸びると期待している。成長のゆっくりさが特徴のようだが。現在、高さ５０センチと３０センチだ。大きい方が、少しだけ風格を見せ始めている。

パキラ

植えて２，３年、高さ２メートルほど。それでも根元は太ってきている。

シェフレラ（旧名カポック）

数年前に植えたが、ぐんぐん伸びてくる。伸びすぎるので、剪定している。

2020 年 12 月 21 日

観葉植物３　ドラセナの仲間　我が庭畑の自然３３

ドラセナは、ほとんどがいただいた鉢を地植えしたものだ。種類が多くて、図鑑とにらめっこして、名前を探す。間違っているものがあるかもしれないが、お許しください。

ドラセナ・マルギナタ（かつて　コンシンネと呼ばれる）　またはフラグランス（マッサンゲアナ）

植物の名前は難しい。結構変わるし、新しい商品名をつけて、それを流通させるのもあるので、なお難しい。これも難しい一つなのだが、覚えやすいので、私は「まっさん」と呼ぶことにしようと思う。

頂き物を植え、挿し木で殖やして、現在数本育っている。高くすれば、5 メートル以上になるだろうが、一番高いもので、現在３メートルほどだ。大きくなると、時々開花するが、そんなに美しいものではない。薄緑の葉と白っぽい幹の美しさに圧倒されている感じだ。

ドラセナ・レフレクサ（ソング・オブ・インディア）　（写真）

繁殖力が強く、挿し木も簡単なので、庭畑のあちこちで育っている。垣根状になっているところもある。黄と緑の縞模様の葉が美しい。枝葉が、踊るようにしてあちこちに伸びる。近くの畑で、販売用だと思うが、大量に栽培しているところがある。

ドラセナ・デレメンシス　ワーネッキー・コンパクタ

上から押さえつけられたかのように、背が低いもの

で、２本いただいて育てている。

ドラセナ・コンシンネ・トリカラー（名前は推定）
　これも頂きものを露地植えしたものだ。3～4 メートルまではぐいぐい伸びるが、それ以上になると、緩やかな成長になり、脇から新しい幹が伸びてくる。幹のてっぺんから葉が伸び、枝といったものはなさそうだ。私に枝と幹との区別がついていないのかもしれない。一番大きいものは、幹も太く、一本から１１本の幹？枝?が出ている。高さ５メートルを越している。
　葉は緑色。元気が良く、現在１０数本が育っている。

ドラセナ・コンシンネ・トリカラー・レインボー
　上のトリカラーとよく似ているが、赤も含めていろんな色がおりかさなるので、レインボーという名なのだろう。葉は細長い。現在数本が育つ。

2020 年 12 月 16 日

観葉植物２　樹木タイプで大きいもの　デュランタ類　ヤシ類　我が庭畑の自然３２

　樹木タイプの観葉植物にもたくさんあるが、そのうち３メートル以上になっている大きなものを紹介しよう。すべて私が植えたものだ。苗を買ってきたものもあるが、頂き物を植えたもの、挿し木で育てたものもある。
クロトン（３種）　黄色系の葉が二種（細葉と太いもの）、緑と赤系の混ざった葉の種がある。台風の風にも、乾燥にも比較的強い。

デュランタ（タイワンレンギョウ　宝塚？　ハリマツリ）　鮮やかな紫色の花が、私は好きだ。幹から細長い枝が出て葉が出、花が出る。挿し木で殖やして２本育てている。多少日陰でもよく育つ。

デュランタ（キバタイワンレンギョウ　　ゴールデン・リーフ　デュランタ・ライム）　台風で、何度折れたことだろうか。でも、毎回再生してくる。2～3 年で元の大きさになる。すごく精力的に伸びるので、垣根などとして使える。各地の公園などにたくさん植えられている。剪定は月に一回は必要だ。

ハイビスカス（４種）　フウリンブッソウゲ３本が一番強い。花が二段のように見える赤いもの（いただいたものを定植し、さらに挿し木したもの）で計２本。他の２本は購入してきたもので、大きな花だ。園芸用に作られたものらしく、それほど強くない。
いずれも花の美しさはすごい。

トックリヤシモドキ　　私が大好きで 40 年以上前から育てたいと思っていた。しかし、成木は売っているが苗の販売は見つけられなかった。15 年前にたまたま見つけて、さっそく購入し植えた。その頃は、高さ 50 センチほど。玄関脇の最もいい場に植えた。いまでは、高さ 4 メートルになっている。年に 5～6 枚新葉が出る。葉は 2 年足らずで一枚ずつ落ちる。葉の大きさは 2 メートルぐらいと大きい。常時 8～10 枚の葉がついている。
トックリヤシに似ているが、あれほど太りはしないで、すらっとしている。

マニラヤシ　　高さ 1 メートル足らずの苗木を植えて、13～14 年になり、高さは 6 メートルほど。建物の西側に育つが、現在 3 階あたりまで伸びてきた。高さ 12 メートルの屋上を越すには、あと 10 年はかかるだろう。

アレカヤシ　　地面から、次々と新しいものが出て繁茂するので、現在は 3 本にとどめている。近隣からの頂き物だ。竹のような容姿だが、ヤシだ。現在、高さ 4 メートルほどだ。

2020 年 12 月 11 日

観葉植物１　ヤリノホクリハラン　クワズイモ　ゲッキツ　千年木・・・　この地域に自生しているもの　我が庭畑の自然３１

観葉植物類が知らないうちにたくさんの種類になってしまった。自生苗、もらった苗が多いが、買って植えたものもある。合計すると、おそらく５０種ほどだろう。名前もわからないモノが多いので、いろいろな本を参照してはっきりさせようとしてきたが、まだまだ不明のものが多い。そのなかで、これまでも参考にしてきた山方政樹『失敗しない観葉植物の育て方』（西東社２００９年）にはおおいに活躍していただいた。
いくつかに分けて紹介していこう。

最初は、この地域に自生しているものだ。敷地の中で見つけて、そのまま大きくしてきたもの。移植してしっかり育つようにしてきたもの。近隣でよく見かけるありふれたものだが、気に入って移植したものもある。

ヤリノホクリハラン（写真）　　知らぬ間に石段に繁殖してきた。形が面白い。最初は雑草扱いしていたが、面白いので、殖やしている。
アロカシア（クワズイモ）　これは散々広がるので、どんどん「退治している」が、それでも元気がいいので、いくつかに絞って大きくしている。小さい赤い実が美しい。
ゲッキツ　　全くの自生で何本も大きくなっている。葉

っぱが可愛らしい。香りもいい。

ゲットウ　　これまた生育力旺盛。花が美しい。薬用として、いろいろと使えるが、ほっておくと、大変な量になり、周りを圧倒する。
コルディリネ（千年木）　大変な生命力で、幹を5～20センチくらいに切って、挿し木すれば７０～８０％の確率で根付く。
コルディリネ（フルティコサ？　アイチアカ？）　　千年木の他にも、鑑賞用に作られたいくつもの種があり、わが庭にも2～3種育っている。図鑑をみても、種の同定は難しいので、2～3種という微妙な表現になってしまう。

シュロガヤツリ（シペラス）　　水辺に生える雑草だと思っていた。恵美子が美しいといって取ってきたものを植える。生育環境がいいのか、高さ１メートルを越すものが、一年で倍に殖える。最近、これを販売している店を見つけた。生花向けのようだ。
ソテツ　我が家建築開始ごろ、敷地にいくつも幼苗があるのを見つけ、定植した。ぐんぐん大きくなり、開花もするが、なぜか雄ばかりだ。他の植物との激しい生存競争と、葉を食べる蝶？などの虫にやられて、元気をなくすものが出てきた。

2020年12月06日

薬草　長命草　防虫袋　我が庭畑の自然３０

庭畑には薬草も多い。フーチバー（よもぎ）・月桃（サンニン）・長命草（ボタンボウフウ　左写真）など、自生のものもあるが、私が植えたものもある。　ドクダミ、ビワの葉、バンシルーの葉、クミスクチン（猫のひげ）、アロエ、ベチパーなどだ。
ベチパーは飲食に使えないが、他の物は乾燥して、泡盛と黒糖に浸けて一か月すると薬用酒になる。私はこれで晩酌する。といってもわずかな量で、かつての大酒飲みの面目は、全くなくなってしまった。
ベチパー、フーチバー、月桃を乾燥させて袋に入れて（右写真）、衣料箱にいれて、防虫剤にしている。市販の防虫剤で肌がかぶれていたが、一掃された。

2020 年 11 月 28 日

ベランダのハーブ・花・樹木　我が庭畑の自然２９

ベランダにはハーブも育てている。　ステビア、ルッコラ、タイム、オレンジバーム、バジル、コリアンダー（パクチー）、チャービルなどだ。

さらに、花も結構沢山育てている。サンパラソル、マリーゴールド、ナデシコ、トレニアコンカラー、日日草、ペンタス、七変化（ランタナ）、ブーゲンビリア、フウリンブッソウゲなどで、常時、５種以上開花している。

　樹木は、千年木１０鉢２５本が中心で、西日除けが主目的である。他に、フウリンブッソウゲ、ガジマル、ユズ、ブーゲンビリア、ラクティアなどを大鉢で育てている。

　建物には、3 階ベランダ以外にも植物がある。

屋上　　ドラゴンフルーツ　10 数鉢育てている。といっても放任状態。自然の雨だけで育つ。春には堆肥を与えるが。年間、数十個の収穫。赤くて美味しい。

4 階　小さなベランダだが、千年木の他、数種の樹木を鉢で育てている。これまた強い日射をよけることが目的ともなっている。

2020 年 11 月 23 日

野菜づくりの中心を畑からベランダへ移す　我が庭畑の自然２８

　庭も畑も樹木が大きく高くなってきて、地表の多くが日陰になる。日照が欲しいタイプの野菜の育ちが悪くなってきた。そこで、野菜つくりの主力を畑から日照に恵まれている３階ベランダへと移した。畑では、多少日陰でも育つ三つ葉、ニラ、ラッキョウなどを育てる。

　そして、１メートル５０センチぐらいの高さにロープで棚めいたものを作り、ウリズン豆（リュウキュウシカクマメ）を育てている。それぐらいの高さにすると日照を確保できる。苗は植えてから数年間活用している。５月に新芽が伸びて、ツルを伸ばしていく。７月頃から少

しずつ収穫が始まり、９月後半～１１月初めが最盛期で、現在３本の苗で、一日に４０～６０個収穫できることもある。１２月には、根から１メートルぐらいの所で、ツルを切り、冬眠させる。

ベランダでは、葉野菜が中心だ。タテヨコ４０×８０センチ、深さ２０センチ余りのコンテナ１０個余りを使っている。市販堆肥を混ぜた土で育てる。葉野菜は自給できる。モロヘイヤ、ツルムラ、空心菜（ウンチェー)、雲南百薬、シマナ（カラシナ)、チマサンチェ、サラダ菜、ハンダマ（２種類)、シュンギク、コスレタス、ネギ、ニガナ・・・
実野菜、根野菜は、スーパーで購入している。

2020 年 11 月 18 日

池づくり２　グッピー育て　ビオトープは諦める　我が庭畑の自然２７

私の実験心は続く。大池を造った場所は、雨量が多い時は地下水がにじみ出てくるところだった。プラスティック池を取った後の地面を固め、そこに水を貯める。そして、グッピーを育てる。雨量が多かった時期の最初のうちは順調だった。しかし、雨が降らないと、水道水を補充しなくてはならない。そのうち、水道水がバカにならない量になる。
取り出したプラスティック池は、畑の南端の低地に穴を掘って置き、新たに大池としてグッピーを育てる。庭の池跡の低地には、湿気を欲しがる植物を植える。ボッグセージ、レモングラス、シュロガヤツリなどだ。シュロガヤツリ（写真）の生育がずば抜けてよい。これは近くの水路で取ってきたものだが、最初の 2～3 本が今や数十本になり、管理に困るほどだ。雑草だと思っていたが、生花などに使うらしく、お店でも売っている。

池の中の植物は数種類だが、生育がよく、特にホテイアオイはすさまじい。そこで、ほとんどを取り出した。メダカの卵を産み付けるのに好都合だったが、トンボの卵の産み付けにも好都合なのだ。
結局は、ビオトープなどは夢のまた夢の話となった。そして、だんだん、池・グッピーなども「飽きて」きてしまった。グッピーは、友人たちに沢山差し上げたが、それでも繁殖するので、室内の水槽でも飼っている。合計して、200 匹以上育っている。実は、室内にも二つ水槽があって、グッピーが元気いい。昨日も１０匹の赤ちゃんが生まれた。
ほしい方には差し上げる。最近はメダカと金魚ブームらしく、お店では、それらの餌はどこでも売っているが、グッピーの人気が下がっているようで、餌を売っている店を探すのも大変なぐらいだ。

2020 年 11 月 13 日

池づくり１　大池と小池　我が庭畑の自然２６

現在、二つの池が、畑の南端と中庭にある。最初に作ったのは、中心になる庭の端にだ。ホームセンターで、プラスティック製の池を買ってきた。長さ２メートルのひょうたん型で深さ２０センチ程のものだ。らせん型ハーブ園の端に穴を掘って、そこに入れる。

池には、グッピーかメダカを飼うことにしていた。しかし、間違えて他のものを育てていた。ようやくメダカが育ち始めた。メダカはヒメダカだったが、地味だし、生命力の強さはグッピーの方がはるかに強い。ということで、数年前からはグッピーになった。

周辺には、ハーブなどを育てた。池の中には、ホテイアオイなどの水草を２～３種類植える。皆順調に生育する。そのうち、数種類の蛙が卵を産み、オタマジャクシが泳ぎ出す。さらに、トンボが来て、卵を産み付ける。卵がヤゴになったころ、動いているのを見て、メダカとは違うものがいることに気づく。繁殖して増えていたメダカの数が増えない。ヤゴに食べられているのに気づく。初めはヤゴを取っていたが、間に合わない。

どなたかに「ビオトープに近づいているから、そうしたら」と勧められた。しかしそのためには、水流を作る必要があるので、難しいな、と思う。

この池づくりが順調にいきだしたことに、気をよくして中庭に次の池をつくることにした。再びホームセンターで小さめの池を購入して作る。玄関通路の橋の下で日陰になるが、これまた順調にいく。それからは、庭の池を大池と呼び、中庭の池を小池（写真）と呼ぶことにした。

池ではないが、玄関脇に大きな甕を置き、そこでメダカを育てたこともある。これまた順調に行くが、台風の際に、何かが落ちてきて、甕が割れ全滅となってしまった。

2020 年 11 月 08 日

芝生はがし　花園などつくる　我が庭畑の自然２５

庭畑づくりが６，７年たったころ、庭の大胆な改造を進めた。まず芝生をはがして、前回書いたらせん形ハーブ園、そして３区画ほど作って、花、ハーブ、観葉植物、小さな樹木、バナナなどを植える。

新たに作った３区画は、土を５０センチほど掘って、

大量の有機物投入から始めた。

ハーブ園と区画間、区画相互間には、敷石を歩幅に並べ、間に砂利や石を並べたままにして、通路をつくる。縁取りにタマリュウを並べて植える。通路には草が生えてくる。時々草取りが必要だ。最近では、ミントなどのハーブが通路をふさぐこともある。

芝生は見た目にはとてもきれいで、多くの人が作り始める。でも管理がうまくいかなくて、私たちのようにやめる人も多い。きれいな芝生だと思うと、聞けばプロないしはプロの指導で作ってある。私の知人は、まずは芝生の基盤をコンクリートで固め、そのうえに土砂をいれるなどして、立派に芝生つくりをしたとのことだ。

我が家では、単純に土をならして、買ってきた芝生を並べたままだった。一応、芝生つくりの本に書いてある通りにはやった。しかし、次々と雑草がでてきて、草抜きが大変だ。一か月に一度以上必要だ。しかも執拗に出てくる。数か月に一回は芝刈りが必要だ。これでは、芝生を楽しむよりは、管理に追われている感じだ。芝生を強く希望した恵美子だが、作業は私が中心だ。それにしても、ふさふさと生えた立派なものにはならない。なにしろ、土は、建物建設後の埋め戻しのものなので、芝生にいいものではない。

そこで、あっさりと芝生をあきらめた。

2020 年 11 月 03 日

らせん型ハーブ園　我が庭畑の自然２４

我が庭つくりの特徴の一つは「らせん型ハーブ園」にある。知人が紹介してくれた本で知り、１５年近く前に、畑に作った。その後、庭にも作った。

※わが庭畑のなかほどに、東西に伸びる石積みがあり、その上部（北側で建物寄り）を庭と呼び、下部（南側で隣地寄り）と呼んでいる。庭は傾斜のない平面で、畑は斜面になっている。

らせん型ハーブ園をつくるために、まず大きな穴を円形に掘る。直径３～５メートルぐらい深さ５０センチくらい。そこに枝葉などの有機物を大量に投入。厚さ５０センチほど。上から土をかける。中央をやや高くする。まわりから中央へと、境界にする岩石をらせん形に積んでいく。２～３周ほど。しばらく寝かせてから、植え始める。

現在の庭のラセン園に植えてある植物を、中央の一番高いところから並べていこう。

柱サボテン　タイム（現在消滅）　日日草　オレガノ（現在消滅）　クリーピング・ローズマリー　マウンテンミント　レモンバーム　オレンジミント　観葉植物　ラクティア　ダイギンリュウ　ハママーチ（沖縄薬草）　木立性ローズマリー　ボッグセージ　シュロガヤツリ　クールミント

らせん型なので、乾湿や日照などが様々になる。植物の好みに合わせて植えていく。しばらく前までは隣接して池を作っていた。２年前に池を移動したので、その跡には、湿気を好むもの（ボッグセージ　シュロガヤツリなど）を植えている。

　このらせん型ハーブ園も１０年近くになるので、少々弱り気味になってきた。そこで、園の端から枝葉を大量に入れたコンポストで堆肥をつくっている。らせんに沿って順々に作っている。一年経ったらコンポストを取り、できた堆肥をその場で少し広げて、何かを植える。こんな具合で、活力を取り戻せることを願っている。
畑に作った第一号は、庭の第二号が順調なので、かなり前に崩した。

2020 年 10 月 27 日

タイム　ペパーミント　レモングラス　我が庭畑の自然２３

　今回は、苦心して育ててきたハーブについて書こう。
まずタイム。　何度も失敗をくりかえしたが、ようやく安定してきた。たいていは苗を買ってきて植える。一度だけ種から育てた。発芽に時間がかかるのでなかなか難しい。苗が２～３本でも、繁茂して使用量を十分まかなえるので、買ってきた苗２～３本の方が、種から大量に育てるよりいいようだ。
　強い味が、ハーブティーを引き立てる。元気を出させるので、ローズマリーと並んで長年愛用してきた。今は、普通の物と、クリーピングタイムの二種類を、ベランダで育てている。他の種類も育てたことがあるが、この二種で十分だろう。

ペパーミント　薬用効果があるというので、人気の高いペパーミントは、苗店でも見かけることが少ない。私は種から育てた。発芽まで時間がかかる。上手くいったので、あちこちに苗を植えた。このところ、手入れ不十分で、消滅状態だ。ミントのなかでは、味が強いタイプだ。

レモングラスは、長年育ててきた。簡単そうで、気を抜くと、知らない間に消滅しかかる。２～３年経つと、根が浮いてくるので、植え替えが必要。植え替えに失敗することが多い。現在は、植え替え中のものが二つ。これがうまくいかなそうなので、先日、新しい苗を買ってきて植えた。湿気の強い所を好む。
ハーブティーの定番だ。

以上書いてきたものの他に、ハーブ本によると、アロエ（３種生育中）もハーブだそうだし、ハーブとみられているティートリーやスイカズラなどを含めると、総計４０種ほどが育っている。

2020 年 10 月 22 日

野菜ハーブ　ルッコラ　パクチー　チャービルなど　我が庭畑の自然２２

今回は、前回紹介したバジルの他に、野菜として愛用しているハーブを紹介する。

ルッコラ（写真）　これは、ハーブ育て当初から栽培しているもので、付き合いが長い。年中、なくなることはない。一年草だが、一年以上生育していて、多年草に近い状態にもなる。茎に着いた葉を下から取っていけば、２年位維持できることもある。もっとも、葉が小さくなってしまうが。

サラダとして愛食している。ピリッとしているので、ドレッシングなしでも、十分だ。

コリアンダー（パクチー）　これもよく活用する。癖があるので、苦手の人もいるが、我が家では愛食している。秋に種まきをして、年を越す頃から活用できる。私は、シチューに入れるのが好きだ。

セルフィーユ（チャービル）　香りのよさは抜群。パセリに似ている。一年草で、種から育てたこともあるが、最近は苗を買ってきて育てている。私が勝手にフランスパセリと呼んでいる。

イタリアンパセリ　普通のパセリやチャービルと同じようにパセリだが、大きい。何度も栽培したが、活用の仕方がよくわかっていないので、放置状態になることが多い。

2020 年 10 月 17 日

ローレル、オレンジバームなど、オレガノ、バジル類、ローズマリー、ベチパー　我が庭畑の自然２１

今回は、多少手入れをしているが、安定して育っているハーブについて書こう。

まずローレル（月桂樹、ベイ）　葉っぱが西洋料理によく使われる。私たちも、時々使う。草ではなくて樹木だ。１０年以上前に植えたのだが、周りの植物と競合し、日陰にもなってきたので、一昨年移植した。ようやく定着し、新枝も伸びてきている。いつか月桂冠でも作れればいいなと思う。

レモンバーム（メリッサ）　シソ科で、ハッカに近いが、クセがない。ハーブティーに入れても、自己主張しない。おとなしく地道に成長するが、広がってきたので、株分けした。

しばらく前に、苗店の店先でオレンジバーム（次ページ写真）を見つけた。初めて聞く名前だ。さっそく購入して、まずはコンテナで育てている。順調に生育しているので、露地植えにするつもりだ。

オレガノ　　味も香りも強い。調子に乗れば、勢いよく繁殖する。しかし、最近、気を抜いていたためか、消滅させてしまった。たくさん収穫した時は、大量の葉っぱをオリーブオイルにつけこんで、オレガノペーストを作り、料理に使用した。

コモンバジル　元気なハーブで、苗を植えればどんどん大きくなる。こぼれ種からもどんどん殖える。料理によく使う。

ホーリーバジル　　以前から育てていたが、その時は関心をもたなかった恵美子が、急に関心を持ち出し、最近はもっぱら恵美子が育てている。現在２種類。生育力旺盛だ。

ローズマリー（木立性と這うもの）　　体調不良で、元気が出ない２０年前に、アロマオイルでおおいに活用した。生育力は強いのだが、気を抜いて消滅させたことがしばしばだ。現在、定着して立派になっているのが、木立性１本とクリーピング（這う）タイプが１本育っている。ほかに苗が１本。
主に、ハーブティーとして使うが、料理にも活用できる。

ベチパー　これだけは、飲食用にはならない。近隣のハーブ専門家からいただいたものだ。ネットでゴキブリ対策に有効とあった。と同時に、シャネル５番の原料にもなるそうだ。
　湿気のあるところで、ぐんぐん伸びる。ほっといても大丈夫だが、２～３年に一度は植え替える。現在は、防虫用として、フーチバー、月桃などといっしょに乾燥させて、衣料箱に入れている。ときに、食糧庫近くに置いて、ごきぶりよけにもしている。

2020 年 10 月 12 日

繁殖し過ぎのハーブ　バナナミント　アップルミント　チェリーセージ　我が庭畑の自然２０

　前回の続きで、繁殖し過ぎて処分に追われているハーブの話。まずミントだが、バナナミントがそうだ。淡白な香り・味で、バナナミントといわれても、バナナの感じがするほどではない。要するに、くせなしのあっさり味。
　アップルミント（写真）は、初めの頃、安定させるの

に苦労したが、今では繁殖しすぎで、毎年、５割は処分している。

まさにりんごのような甘い香りがすごい。ティーに入れると、穏やかな味で、自己主張をしない。収穫したての生の香りがいい。

他のミント、オレンジミント、ブラックミント、マウンテンミント、和ハッカなどは、安定して育てている。ミント類は、地下茎で伸びて繁殖するので、繁殖しすぎの仲間入りする可能性がある。このなかで、マウンテンミントは、これもミントの仲間かと思わせられるものだ。ローズマリーなどの味に似ている。多少ワイルドな雰囲気をもっている。小さな苗の時はミントらしいが、広がっていくとワイルド化してくる。

他に、スペアミントなど、いくつかのミントを育てていたが、品種改良で生まれたと推定される種は、安定して育てるのは難しい。知らぬ間に消えてしまっていることもある。はじめのころは、沢山の種類のミントを育てるのは楽しかった。でも、今では１０種類以下に絞っている。

セージは、失敗ばかりしているが、チェリーセージだけは、巨大化して困ってしまうほどだ。時々、枝を切っている。高さが１メートルを超えるほどなのだ。時々咲く赤い花が美しい。以前にメキシカン・ブッシュ・セージを植えたことがある。美しい紫色の花が咲くが、繁殖し過ぎて、育てるのをやめにした。
ほかに、ボッグセージ、メドウセージが育っている。紫色系統の花が可愛い。コモンセージやホワイトセージは失敗の連続なので、あきらめている。

2020 年 10 月 07 日

１００種のハーブ育て実験と４０種のハーブの定着　メキシカン・スイート・ハーブ　クールミント

我が庭畑の自然１９

１７年前まで生活していた愛知時代も、いくつかハーブを育てていたが、ここ玉城では、ラベンダーなどを除けば、気候的にもいいし、土質がアルカリ性とあって、合うハーブも多い。ということで、ハーブ育てを、最初から本格化させた。他府県の土は酸性だし、寒い冬を露地栽培で越せるものは多くないのだ。

まずは、店で売っているハーブの苗・種を片っ端から育て始めた。すると、１００種類もの実験をすることになった。そのなかで、手入れ不要、ないしは手入れが少なくても育つものを中心に選んで栽培していった。結果的にいうと、４０種ぐらいが定着している。

まずは、手入れゼロでも育つどころか、周りの植物を圧倒してしまうものについて書こう。時々引き抜いているほどのものだ。

代表的には、メキシカン・スイート・ハーブ（写真）。

とても甘いので、ハーブティーの甘味役割を取るほどだ。強烈な繁殖力だ。近くの「山の茶屋」の裏庭の広大な庭園でも育てている。しかし、オーナーも植物の名前をご存じなかったので、教えてあげたことがある。繁殖力を生かしてグランドカバーで活用なさっていたが、ハーブでもあることは、御存じなかった。

苗店で売っているが、名前が知られていないためか、普及はしていない。

何もしないでもぐんぐん繁殖する。１年で当初の数倍の面積を覆ってしまうといってもよいだろう。必要な作業は、どんどん引き抜き、減らすことだと言っていいだろう。同じ甘味ハーブで、もっと甘味の強いステビア育てが安定してきたので、現在は甘味ハーブとして使っていない。我が畑の現在では、条件の悪い所に追いやっている。他の「雑草」を駆除してするために根絶やしにはしないで、「一応育ててはいる」

次はクールミント（写真)。ガムなどに使われているので、「クール」な香りになじみのある人は多い。ミントの中でも抜群の繁殖力だ。１５年ほど前に、どなただったか忘れてしまったが。繁殖し過ぎて困っている方から、苗をいただいた。毎年、生育しているものの７割ぐらいは処分している。放っておくと通路までふさいでしまう。
「クール」な香りを加えるので、ハーブティーのベースにしている。

2020 年 10 月 02 日

果樹園化　バンシルー　パパイヤ　シークァーサー　など　我が庭畑の自然１８

果樹園化は、今回が最終回。いくつかまとめて紹介しよう。

バンシルー（グァバ)

１０年以上前に買った苗で、台湾バンシルーであり、普通の物よりやや大きい実だ。最初植えたのは、中庭だったが、栄養不足の土地で、しかも日陰なので、２年ぐらいして南の畑の端に移植した。元気よく伸びて、実もつけ始めた。まあまあ美味しいが、客に出す程のものではない。年に１０個余りで、存在感が薄く、だんだん関心が低くなってきた。おまけに、隣の耕作放棄状態の畑で背が高くなってきた樹木の日陰になりつつある。どうするか悩ましい。

でも、葉が薬用に使える。薬用酒の中に入れている。

さて、今後の運命は？

パパイヤ

何度も挑戦しているが、成功率は１０％ぐらいか。不思議なことに、買ってきた苗よりも、台所くずから伸びてきたものの方が定着率がいい。でも、沢山収穫したのは、１０年ほど前だ。昨年、ベランダの鉢から出てきたものは、立派

に実ったが、カイガラムシにやられてしまい、早期に収穫し食べた。残った木は取ってしまった。

という具合に、上手くいかない代表作になってしまった。一生懸命やると、うまくいかず、知らないうちに出てきたものから収穫できるということで、「運を天に任せる」気分だ。しかも、雄株・雌株・雌雄いっしょの株がある。花が咲くころまでは、素人には見分けがつかない。

それに栄養分が大量に必要だし、水切れにも注意が必要だ。こういう具合だから、専業農家が腕を振るうものなのだろう。

シークァーサー（ヒラミレモン）

沖縄の代表的柑橘類。

１０年以上前に植えたものが、実をつけるようなったころ、カミキリムシにやられて、枯れてしまった。このあたり一帯、５０年以上前には沢山育っていたようだが、カミキリムシにやられたと、今は亡きベテラン農家から聞いた。

懲りずに、柑橘類として、今２本のシークァーサーと、ポンカン、ユズの苗を育てている。いつか成功の日を夢みつつ。

他に、現在挑戦中なのは、ジャボチカバとホワイトサポテ。苦労をいろいろしているが、収穫できるようになったら、書こう。収穫できるかどうかは不明だが。

2020 年 09 月 26 日

果樹園化　インドナツメ　パッションフルーツ　我が庭畑の自然１７

まだ果樹園化の話が続く。

インドナツメ

１２年前の第一回南城祭の時に購入した苗と記憶している。はじめのころは、育て方がよくわからなかった。どんな実がつくのさえわからなかった。店頭で売られているのも見たことがなかった。

そのうち、インターネットでも情報が流れ始め、少しずつわかってくる。

コツは、収穫後の４月に大胆な剪定を行う事だ。尋常ではない剪定だ。前年に伸びた枝葉をほぼすべて切り払うほどだ。だから丸坊主の２メートルの高さの幹だけになる。剪定後、一か月もすると、ニョキニョキと枝葉が伸びてきて、やがて、５メートルほどの高さになる。そして開花して、３月ごろに収穫になる。

２年前に、今年もダメかと剪定し始めたら、何個かの実がついていた。美味しいのだ。青りんごの雰囲気。これはいけると確信した。昨年は台風で花が飛ばされて、収穫ゼロ。今年は期待している。

写真は、インドナツメの幹　これより上に枝葉が伸び

ている。

パッションフルーツ

ここに住み始めたころから栽培している。１００個以上収穫と上手くいった年、全然ダメな年、まあまあな年といろいろだ。黄色と紫色、そして他の種類といろいろだ。

人工授粉が成功した年、全くダメな年。気まぐれな感じだ。自家受粉ではだめで、異種間だと授粉するものもある。

畑に、私の身長と同じ１７０センチほどの高さのロープで棚を作って、ツルを這わせている。４～５月開花→７月収穫、９～１０月開花→１２～１月収穫と、年２回だ。今は、ウリズン豆と共用で、両者のツルが入り乱れている。

花がトケイソウといわれるような形の美しいものだ。

実は、酸っぱいが美味しい。何日もかけて室温完熟させて、表面にしわが出てきて、甘い香りを外に出し始めたら食べごろだ。二つに切って、おわん型になったところに、泡盛か何かを注ぎ食すると美味しい。中身をとって、他のものと混ぜて飲むのもいい。種を気にする人もいるだろうが、そのまま一緒に味わうのが、我が家流。

2020 年 09 月 21 日

ウリズン豆大量収穫　　我が庭畑の自然１６

7 月下旬から収穫はあるのだが、一日一個あるかなしか、だった。9 月後半に入って爆発的収穫。

19 日 19 個　20 日　56 個　21 日 21 個　　この後、多分一日 20 個ぐらいが、11 月まで続くだろう。

ほぼ例年通りだ。12 月に入ると、収穫が終わり、枝を根元 20 センチぐらいの所で切る。お休みだ。来年 5～6 月になると、急成長するはず。

現在 3 本の苗で栽培だが、そのうち 2 本は、今年植えたもの。一本は数年前に植えたもので、収穫量の 6 割を占める。このように、苗には数年がんばってもらう。

写真は、大量収穫　もう一つは可愛い花

2020 年 09 月 16 日

果樹園化　カニステル　バナナ　我が庭畑の自然１５

さらに、果樹園化の話は続く。

カニステル

１０年ほど前に、親戚から頂いた苗が育って、３～４年前から収穫が始まる。今年は立派なものが１００個近くなり、収穫が本格化した。来年以降も期待したい。

食べごろになるまで待てない人が多く、早く食べ過ぎたため「美味しくない」といって、遠ざかる人が多い。収穫した実を一か月近く室温完熟させて、色づくだけでなく外から押さえて、とても柔らかくなったと感じた時に、ようやく食べごろになる。なかなか美味しい。

管理は、木が高くなり過ぎないように、２メートルぐらいに抑える剪定ぐらいだ。

写真　カニステルの赤ちゃん　来年の早春には収穫

バナナ

西原に住んでいたころにも育てていたから、長い付き合いだ。知らない人は、植えるだけで実ると思っている。知人の農業専門の人から教えてもらったこと。とんでもなく大食漢であり、一本に市販堆肥一袋必要。脇からでてくる新芽はどんどん切るというのだ。

台風に弱いのが残念だ。葉が大きいし、一株育てるためにさえ、栄養分豊富な土地がかなり広く必要なので、近年は、本数を減らしている。現在は２株ぐらいだ。他の木々が大きくなってくる２～３年後にはゼロになりそうだ。

３～４年前、立派に育ち、７～８房の大きなものの収穫を期待していたが、台風で倒れた。そのまま横倒しにして、土の有機化に役立てようとしたら、そこから新芽が出てきて、収穫にまで至ったのには驚いた。

もう一本、横倒しになった「幹」に溝を掘って、そこに植物を植えたらどうなるか、という実験をしたことがある。半年ぐらいは、大丈夫だったが、結局は無理だった。こんな実験をするのも楽しい。

2020 年 09 月 11 日

果樹園化　ビワ　アセローラ　ピタンガ　我が庭畑の自然１４

前回に続き、果樹園化の話。

ビワは、１３、４年前に買ってきた苗を植えた記憶だ。これもライチ同様、鳥との先取り争いだ。収穫は３月だが、鳥の食糧不足の時期なので、争いは熾烈だ。

摘花、摘果が大変だ。半分以下にしている。面倒だが、袋掛けもしている。ライチやビワの袋は売っていないので、パッションフルーツやマンゴー向けのものを使用し、一袋に何粒も入れている。

７，８年前から毎年収穫している。１００～２００個というところだ。高さを２メートルほどに抑えて剪定している。もう一本植えたのだが、周りの木々との樹間を確保するために、伐採した。
実だけでなく、葉も薬用に収穫している。

アセローラは、ピンク色の可愛い花を咲かせた後、２週間足らずで１センチほどの赤い実を収穫する。年に何度も収穫する。美味しいが、酸っぱさがあり、好みでない人もいる。２本あり、かなり収穫していたが、完熟した実の３～４割も食べていないので、一本を切った。樹間を確保するためでもある。

写真はアセローラの花

ピタンガは、アセローラと似ていて、木にしても実にしても、区別できない人が多い。だが、ピタンガは酸っぱさがほとんどなく甘いので、誰にでも好まれる。一度に何十個も収穫できて、食べきれないこともある。

食べきれなかった実が落ちて発芽して、知らないうちに幼木になっていることも多い。現在、１０年ほど前に買ってきた苗一本が収穫の主体だが、次の幼木が大きくなって、収穫が始まった。さらに１～２本の幼木を育てるつもりだ。客人に差し上げた幼木もある。

2020 年 09 月 06 日

果樹園化　マンゴー　ライチ　我が庭畑の自然１３

庭畑シリーズはこれからしばらく、庭畑つくり開始以後の変化の主なものを書いていこう。

最初に果樹の増加の話。スタート当初には、土地の前所有者が植えた金煌マンゴー、ライチ（３本）があった。

金煌マンゴーは、最初から随分大きく、いつ収穫できるかと待ち遠しかった。数年後、数個の実をつけ、翌年爆発的収穫があった。通常のマンゴーより大きいものを３００個近く収穫した。たくさんの方々におすそ分けした。とても美味しいものだった。ところが、その後、よく言われる隔年現象があり、収穫できるかと思った年は、台風で飛ばされたりと、上手くいかない年が続いた。

あまりにも巨木で、周りを圧倒し、庭畑の２～３割ぐらいを日陰にする勢いだった。毎年、剪定が大変だった。いずれ私の加齢に伴い、管理できなくなることを予想して、意を決して伐採したのは、２０１８年だった。大変に労力がかかる作業だった。

実は、もう一本アップルマンゴーを植えたのだが、上手く生育していないので、これまた切った。マンゴーは、やは

りプロの農家に任せようと思う。

写真は、豊作の年の２００９月５月撮影の再掲。メジロのつがいといっしょに。２か月後に１０倍の大きさになってから収穫。

ライチの方は、３本のうちのいずれかは実をつける年が多かったが、かなりの試行錯誤の末、数年前から１００個以上の収穫ができるようになってきた。今年は３００個以上も収穫できた。試行錯誤の難題は、まず鳥との争いだ。赤くなり、匂いが出始めると、鳥が一気に食べる。早くとると美味しくない。鳥が食べる直前がいい。その限られた時間は、２４時間もない。今年がベストで、熟した果実の９割を確保した。例年は５割程度だ。袋掛けをしても鳥に食べられるが、袋掛けの効果はある。収穫は６月初め。

剪定も難しく試行錯誤だ。新しい枝からは結実しない。去年の枝から結実するものがでてくる。剪定しないと徒長枝が多くなるし、加えて伸びすぎて、収穫可能な高さを越えてしまう。

４年ほど前の収穫の際に、木から落ちて腰を打ってしまった。美味しいけど、苦労が絶えない。

2020 年 08 月 27 日

グランドカバー　オオタニワタリ　リュウゼツラン　トックリラン　我が庭畑の自然１２

グランドカバーとしては、前回書いたミントなどのハーブの他に、オリズルラン、紫オモト、ポトス、タマシダなどを活用している。いずれも繁殖力旺盛だ。ほとんどが日陰でも生育する。（中庭のグランドカバーは、２２日記事に書いた）

いずれも美しいが、殖え過ぎると「憎たらしくなる」。だから、メキシカン・スイート・ハーブ、ポトス、タマシダなどは殖え過ぎを切ることが必要作業になる。

オリズルランは、殖え過ぎるほどではないので、管理上、都合がいい。ランナー（匍匐茎）を伸ばして、殖えていく。時には、それを切って新しい場所に植えて殖やすこともある。

他にも、いろいろと試したものはあるが、手入れ不足や他のものに負けて、消滅したものもいくつかある。結局、土地にあったもので、手入れ不要のものが育っている。これまた、私式の自然流（ナンクルナイサ）だろう。

そういえば、庭畑にあちこちに２０以上は広がっているオオタニワタリも、グランドカバー状態だ。１５年位前に、近くの三木さんと植物交

換をした時にいただいたものだが、胞子で殖えるものだから、庭畑のあちこちに広がっている。通路も殖えやすいところだ。通行妨害しているものが、もう十数株にもなっている。条件がいいところだと、巨大化し、直径１メートルをはるかに越し、幹めいたものまでできてきている。美しいので、恵美子も、鉢に植えて、室内で育てたりしている。写真は、庭から畑の石段通路上のオオタニワタリ

殖えやすさついでに書くと、リュウゼツラン（写真）も子株をよく作る。もったいないというので、株分けして庭畑のあちこちに植えたので、もう１０株近くになっている。それでもなお出てくるのは申し訳ないが、切っている。最初は、１５年位前にどなたかからいただいたものだが、買えば結構な値段だろう。２０年余りすると開花するらしいが、我が家のものはいつだろうか。

似たものとしてトックリランがある。６月２９日３０日記事の写真で、卓球知人の川端さん宅で開花しているのを写真掲載した。１０年以上前に、川端さん宅で見て気に入り、苗を購入して植えたものだ。現在２株ある。まだまだ小さいが、少しずつ「太って」来ている。この開花は、いつのことになるだろうか。私が生きている間に見られるのだろうか。

2020 年 08 月 22 日

縁取り　タマリュウ　植種ごとの地面の占有率　　我が庭畑の自然１１

作った通路と植物を育てる庭畑との間に縁取りの植物を植えている。大半がタマリュウだ。他に、セダムなどもその役割を果たしているが、多くはない。また、隣地境界近くには、千年木を沢山植えたが、縁取りというわけではない。タマリュウは、愛知の家の庭から引っ越し荷物ともに、たくさん持ってきた。最初は、点のように通路と畑の境目に植えたが、そのうち線になり、最近では面状態になっている場所が増えてきた。大変強い植物で、手入れは不要。全くの日陰だと育たないが、少しでも日が当たれば大丈夫だ。しかも、他の植物の生育を抑えるので、助かる。

沖縄でも苗店で時々売っているが、相応の価格で、縁取りまで育てるのは大変だろう。ある時、探している人がいて、我が畑のものを譲ってあげた。

庭畑つくりの初めの１０年間は、野菜にもかなり挑戦していたが、成功率は低かった。キウリ、トマト、ネギなども育てていた。畑の主力は野菜だった。しかし、そのうち、樹木が大きくなり、パッションフルーツやウリズン豆の棚も広がり、地面の日照がどんどん悪くなり、野菜は限られた面積になった。その点では、野菜ほど日照を求めないハーブ類の比率が高まってくる。しかも、ハーブ類は強いし、手入れなしでも広がるものが多いので、地面の占有率が高くなる。

地面の占有率を、計算してみよう。とてもいい加減だが。
通路２０％　縁取り（タマリュウなど）１０％　樹木（果樹・観葉植物・大木）などの根の周り３０％　ハーブ３０％　野菜５％　堆肥づくり向けの枯れ枝葉置き場５％

露地で育てている野菜は現在、ウリズン豆・ニラ・ウッチン（ウコン）などに限られている。
ハーブは、放置していても安定しているものは露地で、多少デリケイトなものは、栽培コンテナで育てている。
露地のハーブは、グランドカバーのようなものである。代表的には、メキシカン・スイート・ハーブだ。昨年までは、甘味を得るためのハーブの主力だったが、ステビアが順調に育っている今、もっぱらグランドカバー機能が中心だ。他は、ミントが多い。とくにクールミント、バナナミント、アップルミントなどは雑草化している。収穫して使用するのは、そのうちの数%にとどまる。

写真は、屋上から見た庭畑全景　中央から左下は３階ベランダ　右と上は、地上　こうやってみると木に覆われて地面は見えない。

2020 年 08 月 17 日

中庭の観葉植物類・グランドカバー　オリズルラン　　我が庭畑の自然１０

連載９に書いた隣人とは別の隣人が、引っ越し記念にガジュマルの鉢植えをくださった。ガジュマルの他に、サンセベリア、オリズルラン、エピデンドラム（ランの一種）などが寄せ植えしてある。手作り寄せ植え？盆栽？だ。
長く３階玄関の前に置いてきた。どんどん成長して立派になった。ガジュマルだから、ひげ根がぐんぐん伸び、３メートル下の中庭の地面に根をつけ、そこから水分と栄養をとって、ますます立派になる。鉢が小さすぎるので、大型のものに移植する。
ある時、気づく。ガジュマルの根が、橋の欄干の隙間に潜り込んで太くなり、放置しておくと、欄干を壊す危険が高まっていることに。そこで、ガジュマルの根を切り払う。それでも、元気よく生育している。

この庭は、最初のうちは、なかなか育ちが悪かったのだが、そのなかでも劇的に広がってきたのは、ポトスだ。広がり始めたとおもったら、すぐに全面を覆う勢いだ。他府県の人が、ビル内やカフェなどで目に触れる大きさと規模が違う。条件がいいと、１枚の葉が５０センチ近くまででかくなる。だから、庭の邪魔ものとして刈り取る、というか駆除する人もいるぐらいだ。実は、私も最近では駆除しているのだ。
でも、ポトスの御蔭で、荒地状態だった中庭に緑が増えてきた。そこで、ポトスに代わるグランドカバーになる植物

を植え始めた。

オリズルラン、タマリュウ、ヤブコウジ、サンセベリア、クワズイモ、オオタニワタリ、ムラサキオモトなどである。ほぼ日陰植物か耐陰性があるものである。だから、タマリュウなど、多少は日照を欲しがるものは衰えていく。これらのなかで、ポトスは別にして、元気なベストフォーは、オリズルラン、サンセベリア、クワズイモ、オオタニワタリである。写真はオリズルラン。

そのグランドカバーに覆われた地面から上へ上へと樹木が伸びていく。前回までに書いたトックリヤシモドキ、ハイビスカス、フウリンブッソウゲ、クロトン、キバナタイワンレンギョウ（キバタイワンレンギョウともいう）、タイワンレンギョウなどである。樹木ではないが、月桃も成長している。隣地との境界近くの「垣根」の役割を果たしているものもある。

それらの空間をぬって、やや小ぶりの観葉植物が見られる。
マッサン、ミルクブッシュ、コルジリネ（コルディリネ）類などだ。観葉植物の他に、月下美人、着生ラン、スパティフィラムなどもある。コルジリネには、５メートルを越すものから、２０～３０センチぐらいまで、多様だが、ほとんどいただきもので、種名を特定できないものが多い。

この中庭の隅に、プラスティック製の小池をつくり、グッピー２０～４０匹が生活している。どんどん殖えるので、正確な数は不明。

動物としては、オカヤドカリ（アーマン　特別天然記念物指定）も何匹か棲んでいるようだ。たまに小池に水を飲みに来る。６月頃には、産卵にために海に出かけるためにも出てくる。蝶やトンボをはじめ多様な虫も棲んでいる。

2020 年 08 月 12 日

中庭　トックリヤシモドキ　我が庭畑の自然９

我が家の建物北側に数坪程度の斜面がある。２階の部屋の目の前だ。１階は北側では地下になっている。３階の玄関と駐車場とは橋で結ばれている。だから、「橋の下の庭」という感じだ。

土は埋め戻しのために、もともとあったクチャと石灰岩の上に外部から持ってきた山土をのせたもので、栄養分ゼロ状態だ。しかも石が混ざっている。加えて、建物北側なので、日照時間はとても短い。橋の下などはゼロに近い。傾斜地なので、雨が降っても水はすぐに流れ、保水力が低い。高低差３メートル近くなので、かなりの傾斜である。

斜面の中央あたりに水路がある。近隣から流れてくる水を下方に流すものだ。昔からある「流れ」が、敷地を横切る形にコンクリートで整形され、東通路に設けられた下方に向かう水路へと流れ込む。普段、水流はないが、大雨の時は、水が流れる。

このように、条件が悪いとはいえ、玄関脇であり、来客が必ず目にする所でもある。現在、橋の上から下を見ると、中庭が見え、人の背の高さには、下から伸びてきている樹木の枝や花がすぐ近くになる。

この傾斜面をどうするかは、まさに試行錯誤で、現状の観葉植物園風に落ち着くまでに１０年以上経過した。

当初まずは、いろいろな樹木を植えた。いまでは、それらのうち三分の一以下しか残っていない。日照が必要なバンシルーなどは、南の畑へ移した。酸性土を好むサツキ、山茶花なども植えていた。そのころ酸性・アルカリ性などもよくわかっていなかった。数年たって、酸性を好むものはすべて消滅した。

結果の話だが、沖縄のあちこちに見られるクロトン、月桃、キバナタイワンレンギョウ（キバタイワンレンギョウともいう)、フウリンブッソウゲ、タイワンレンギョウが、しっかり生育している。

そのなかでも特筆したいのは、トックリヤシモドキが橋の脇にしっかりと育っていることである。すっくりと立ち上がった木の姿が大好きで、以前から育てたかったものだ。なかなか見つからなかったが、庭畑仕事を始めて間もないころ、店で見つけて、即座に買った。丸く太ったトックリヤシよりも、私の好みだ。植物の美人コンクールがあれば、高位にランクされるだろう。名前がトックリヤシの「モドキ」となっていて変だから、改名したほうがいいと思う。

駐車場から橋に入ったところの右側に植付けた。当初１メートルほどの高さで目立たなかったが、現在３メートルを越して、来客はすぐに気づく。年に２０センチほどと成長は遅いが、確実に大きくなってきている。幹もしっかりとした姿になってきた。今年、葉が落ちた所から、花がつくだろうと思われる枝のようなものが出てきて、現在四本になった。もし、開花して実がつけば、繁殖に挑みたい。

時々、虫がついて、枝葉、さらには幹を食べて枯らすようだ。この木も２回襲われた。木酢液をかけて退治した。

トックリヤシモドキを植えた個所の「工事がきれいでない」と、以前に建築業をしていた隣の人がセメント工事をしてくれる。全くのボランティアだ。

上写真は、駐車場からみた我が家入り口　右にトックリヤシモドキが見える

右写真は、２階の中庭

2020 年 08 月 07 日

庭畑への通路　　我が庭畑の自然８

ほぼ南北方向に建物があるので、東西側に通路が必要になる。建物北側の玄関や駐車場から南側にある庭畑へ

の通路となる。東側は、幅８０～１２０センチ、長さ２０メートルほど。高低差５メートル。隣地境界には、高さ６０センチほどのコンクリート製の塀と排水路がある。西側（写真）は、幅６０～２００センチだが、６０センチほどの細い所が多い。長さ２０メートルほど、高低差５メートルで西側と同じだ。排水路はないので、雨の時はぬかるみ状態になる。いずれも埋め戻しの土で作られている。また下水管などが埋設されている所が多い。

私たちが歩くぶんは我慢できるが、客に歩かせるのは気がひける。加えて、東西とも、隣地は森状態で、枝が伸びてくるし、つた植物が侵入してくる。

双方とも、畑の通路づくりと同様に岩石を階段状に近い形でならべ、歩ける状態まで持っていくのに苦労する。東側は、レンガを踏み石のように階段状に並べた。間に植物（タマリュウ、ポトス、サンセベリア、オオタニワタリ、ムラサキオモト、オリズルランなど）を植えた。

その後も、繰り返し手を入れるが、なかなかうまくいかない。埋め戻した土が２０センチ近く沈み込んだこともある。建築後１６年経ち、沈み込みも収まってきた今、自分で作るのをやめ、業者に通路工事をしてもらうことにした。

西側は細いので苦労したが、建物の追加工事の折に、余った生コンを流してもらい、誰でも通行可能となった（写真）。美しくはないが。隣地との境界には、千年木やクロトンを植えた。例外的に幅がある箇所には、マニラヤシを植えた.これが今では、高さ５メートルを越し、建物の３階にまで達している。

2020 年 08 月 02 日

通路づくり　千年木　ブーゲンビリア　我が庭畑の自然７

庭畑づくりの最初の頃にした作業として通路づくりがある。傾斜がきついので、通路をつくって、傾斜のない平面をいくつか作る必要がある。棚田と同じことだ。畑は、区切った境界を通路にして、２０余りの区画に分けた。

通路は、まず大きな石（岩に近い）を並べる。その周りに小さな石を入れる。それらの上からモルタルをかけて固める。これらの岩石は、畑にスコップを入れるだけで出てくる。実に大量だ。作った通路の総延長は１００メートル近いはずだ。

庭の方は平らなので、やり方を変える。建物の基礎工事のために、クチャ層を４～５メートル掘り下げ、コンクリートを投入して基礎が作ら

れた。４階建て１２～１３メートルの建物なので、設計上、そうなるとのことだ。その基礎から、４本の柱を立てて、建物にするわけだ。基礎をつくったら、埋め戻しが行われ、そのために建物南側は平らになる。そこを庭にしたのだ。

最初は、大部分に芝生を植えた。その周りに植物を植えていく。だが、準備作業をきちんとしないまま、芝生を貼ったので、数年後には、定着しないまま劣化してくる。雑草だけが沢山出てくるので、草取り作業が大変だった。

周りに植えた植物で一番多いのは千年木だ。隣地との境界近くに、挿し木していく。長さ２０センチぐらいに切って挿していく。水に一週間ほどつけて、根が出始めてからのことだ。５０本近く植えらたが、成功率８０％だ。

千年木（写真）は、偉大ささえ感じる。観葉植物の一つで、「幸福の木」などと称して、人気があるようだ。でもたいていのものは品種改良で、葉色はいろいろとあるが、丈は１～２メートルが多い。きゃしゃな感じだ。対照的に我が家の千年木は、沖縄には至る所にみられるもので、図太くいかにも強そうだ。

３０年以上前に住んでいた小波津団地時代も育てていて、転居する際に、幹回りが２０センチ近い長い幹を切って持っていき、それを１５センチぐらいに切って、多くの人にプレゼントした。大学の研究室でも育てた。失敗がなく、誰でも育てられる。鉢への水やりだけが必要だが、一か月室内に放置したままでも生きていた。

ブーゲンビリアも大成功した。記念木としていただいたものだ。近くの花野果村で購入したもので、その時、高さ１メートルぐらいだった。建物のテラス沿いに植えた所がよかったのか、驚くほどの成長だ。３～４年で８メートル近くまで伸び、美しい赤っぽい花が遠くからも目立った。ブーゲンビリアが咲いている家と言えば通じたほどだった。建物３階を超えて、4 階に近づいていた。枝をどう支えるかが問題だった。ロープで支えたが、もちこたえられるかどうか心配で、建物追加工事の折に、金属製ロープを設置し、支えた。

とはいえ、台風の影響をもろに受け、倒れたり折れたりしてしまう。せっかくの金属製ロープも数年でずたずたになる。その後も、いろいろと苦労を重ねる。そのうち、勢いがなくなり、小さくなってきた。現在は 4～5 メートルの高さにとどめている。美しいが、強剪定が必要で、その作業が結構大変だ。でも、剪定次第だが、年に３～4 回咲く。

他には、ビワ、ワシントンヤシ（後に枯れて、今はアレカヤシ）、ソテツ、ソングオブインディア、コデマリなどを植えた。多くは、新築記念として贈呈されたものだ。蘇鉄は、敷地内に転がっていた赤ちゃんを植えたものだ。

2020 年 07 月 28 日

土質　不耕起　土の有機化への試行錯誤　　我が庭畑の自然６

連載２（７月８日記事）で書いたように、何度かの経験を踏まえて、また今後「死ぬまで」暮らすつもりだったので、かなり気合を入れて庭畑づくりに着手した。だから外部業者の力を借りずに、自分でやることに決めていた。そこでま

ず区画をつくり、通路を作ることから始める。そして、有機・無農薬を基本方針とする。

ここの土は、０～１０センチある表土はジャーガルだが、それより下は、クチャ（粘土、粘板岩）そのものだ。表土は、急傾斜地なので、大雨の際に、水とともに流れ出てしまう。クチャは、棒を立てようとして突き刺しても、通っていかないほどだ。

水を通さないクチャとその上の水を通すジャーガルや石灰石との間を地下水が通る。だから、大雨になると、すぐに表面に水が出てきて、通路は川状態になる。

クチャがあまりにも硬いので、耕すのは困難だ。農具として、鍬を使えない状況だった。土を扱う時は、もっぱら鉄製のスコップを使用した。つるはしでもいいが、持っていなかった。

そのため、耕さない状態が継続した。近くの人に、「不耕起」で畑をやっていると語る人がいた。「私もそうだな」と思い、不耕起の方針も確定した。堆肥をつくるための穴や、苗木植え付けのための穴をスコップで掘ることが、「耕起」めいたことだった。不耕起には、植物の根が耕してくれるという発想が潜んでいる。といってもクチャに入り込む根はそれほどない。伸びる所を失った根が下水管の継ぎ目に入って、困らせる事さえある。

土を豊かにするために取った方針は、敷地内で出てくるすべての枝葉を土の中に入れ込むことだ。それを堆肥化つまり有機化することだ。そのために、穴を掘り、枝葉を放り込んだ。そして、市が補助金を出している堆肥つくり用のコンポストを購入し、そこに枝葉を放り込む。ただし、できるだけ乾燥させた後にする。そうしないと発酵ではなく腐敗が進行してしまうからだ。いまでは、採取した枝葉を、黄色い四角の箱に入れている。安価で、風通しがいいように作られているので便利だ。今は１０箱ほど活用している。そこで乾燥させたものをコンポストに投入する。

穴にしろコンポストにしろ、枝葉の他に土や米ぬか、時には鶏糞などを入れたこともある。そうして発酵を促し、栄養価を高めている。入れたものは、しばらくすると熱を持ってくる。一年近くなると、堆肥になる。

こう書いたが、うまくできるようになったのは、スタートしてから１０年たったころだ。ほかには、樹木の根元などに枯れ葉を置いて、雑草防止用のマルチ機能を果たさせている。

それでも、栄養分をいきわたらせることができずに、市販の堆肥を毎年１０袋以上投入していた。

事態を大きく変えたのは、木チップの大量投入だ。近隣の自然農の専門家がいて、その効能を教えてくださった。シルバーセンターが、庭手入れの時に出てきた枝葉をチップ化して販売しているのだ。２トントラック一台で、２０００～３０００円（運送費込み）と、とても安い。我が家の駐車場に置いてもらったが、すでに発酵が始まっており、湯気が出ていた。それを二台分投入したあと、我が敷地は、劇的に変化した。それ以降市販堆肥の投入は限定的なものになった。

堆肥以外の投入物として市販の栽培用土がある。近くの大城ダムに隣接する城間農園の土は、上水道の沈砂池にたまったものでつくっているが、時々活用させていただいている。

シマナー（カラシナ）　とにかく強く、種こぼれから出てくることも多い。沖縄にぴったりの野菜だ

2020 年 07 月 23 日

オオジョロウグモ　オスとメス　我が庭畑の自然５

わが庭畑には、日本最大の蝶、オオゴマダラだけでなく、日本最大の蜘蛛、オオジョロウグモも生活している。５月ころから見かけ、１０月頃までである。庭畑のあちこちに巣を張る。７月下旬の現在、数十の巣がある。だから、私たちも歩けば巣にひっかかる。巣も大きくて、１～３メートルぐらいだろう。

見るからに怖そうな体つき・色をしているので、虫嫌いの人には、夏の庭畑散策は大変だ。

メスが大きくて、５月末に２～３センチだったものが、１０月には１５～２０センチぐらいになる。対照的にオスは小さくて、せいぜい１～２センチほどで、赤味がかっている。メスが張った巣に、数匹、多いものでは２０匹ぐらい、メスとは距離をとって、棲みつく。

メス（中左写真）

オス（中右写真）

メス（下左写真）

メス一匹　オス数匹（下右写真）

交尾し終えた後、メスがオスを食べるというから、オスは必死そのものだ。オスは小さすぎて写真にとりにくいのだ

が、今回とれたので、この連載に登場したというわけだ。写真の中に何匹居るか、よく見て確かめてほしい。

オオジョロウグモが巣にひっかかった鳥を食べたという話に出会ったことがある。大きいから、ありそうな話だ。ある時、地面すれすれに巣を張ったものとカマキリとが鉢合わせになった。どちらが勝つかと興味津々だったが、その時はカマキリが勝利した。

2020 年 07 月 18 日

土地の歴史と自然環境　　我が庭畑の自然４

前々回（7月８日記事）書いた歴史で言うと、現敷地について、私たちが住む以前の話も書いておく必要があるだろう。急傾斜地だが、１９７０年代までは畑地だったようだ。おそらくサトウキビだろう。だから、地目は畑になっていた。地目転換の手続きを終えてから、購入着工した。

２０年間ほどは耕作放棄地になっていたようで、雑木林の雰囲気が出ていた。そのなかに、前所有者が、クロキ１０数本、金煌マンゴー、ライチなどの木を数本植えたのは１９９０年代だろう。施工業者に「自然は可能な限り残してください」とお願いしたので、クロキ、金煌マンゴー、ライチなどは残してくださった。建物敷地内にあったものは、庭畑予定地へ移植していただいた。

急傾斜なので、途中に石段をつくり、庭畑は二段になっている。石は、敷地内から出てくるものを使う。いうまでもなく琉球石灰岩だ。大きいものでは、３０センチ以上、２０キロ以上だ。石というよりは岩に近いといえるかもしれない。私の庭畑の通路づくりも、出てきた大量の石を使った。いまでも、地面を５０センチほど掘ると、石が出てくる。

土地は、以前から売りに出されていたようだが、急傾斜地のため、買い手がつかずにいたという。

ここで、我が敷地だけでなく、広く中山地番になっている所を見てみよう。中山は、海岸から丘上まで細長いが、下から上へと順に書くと、大きく分けて、平坦な畑・傾斜地（下部分は住宅、中上部分は森林）、丘上のやや平坦地（ゴルフ場）となっている。我が敷地は、傾斜地の住宅が畑へと移っていく地点にあり、海抜２０～２５メートルほどである。我が家より下にある畑は、１９６０年代初めまでは、美田といわれるほどの稲田が中心だったが、１９６０年代にサトウキビ畑に変わった。１９８０年代には、農業基盤整備ということで、土地区画整理が行われ、１９９０年代前半に完成した。

水が豊富なところなので、稲田がつくりやすかったのだ。今でも水が溢れることがある。傾斜地では泉が湧き出ることもある。近くの名水垣花樋川と同じことだ。我が敷地も地下水が流れているようで、大雨の後は、水がにじみ出してくるが、池ができるほど水をとれるわけではない。

2020 年 07 月 13 日

酷暑の夜に開花し、美味しい実をつけるドラゴンフルーツ　　我が庭畑の自然３

庭畑スタート早々に、隣の人から苗をいただいた。柱サボテンのようだ。育て方がわからないので、畑の一角に植えて置いた。成長はしたが、開花結実とは縁がなかった。当時は、インターネット情報も限られており、育て方がわからないものが多かった。

得たわずかな知識では、日照が決定的に重要とのことだった。そこで、日照条件最高の屋上に、大型ポット十数個を置いて、そこで育て始めた。土は、市販の堆肥と砂を中心にした。それに燻炭などを混ぜてみた。

作戦大成功で、翌年から、時には一日一個のペースになるほど収穫できるようになった。６月終わりから１０月までだ。

その後、かつての研究会仲間で、現在ドラゴンフルーツ農家している人から情報を仕入れて、いくつか改善していった。そこでは、つけたばかりの小さな蕾を出荷していた。大都市の「高級料亭？」でてんぷらになるそうだ。

写真は、順に。できたての蕾　　開花直前　　花に群がるミツバチ　　花　　鳥に食べられた跡　　収穫

現在は、次のように世話している。

冬　　古くなった枝を切る
春　　市販堆肥を投入
５月末から開花がスタート　なぜか、満月または新月あたりに多い。開花後２０日ほどで、実が赤くなり収穫
秋　　開花は１０月初めに終了
　普段の手入れは、月一回の草取りぐらいだ。水やりは天水に任せっぱなし。とげが痛いので、作業に軍手が必要だ。

　開花は、夜８時頃から開き始める。３０分ほどで開花完了。開く音がきこえるほどの高速開花だ。翌朝にはしおれる。夜の間にミツバチなどの虫が授粉してくれる。近くに養蜂場や森があるので、結構虫が活躍してくれ、授粉率は高い。
　花は最高に美しい。似ているものに月下美人があるが、それより大きい。直径１０センチ以上だ。
　繁殖はもっぱら挿し木だが、上手くいきすぎ。切った枝もそのままにしておくと、新しいものがでてくるほどだ。
　ドラゴンフルーツにはいくつかの種類があるが、我が家のものは、実が赤くて、とっても甘い種類で、ラッキーだった。差し上げると、とても喜ばれる。

2020 年 07 月 08 日

１６年前の庭畑つくりスタートのころ　　我が庭畑の自然２

　我が家の庭畑のスタートは、２００４年９月ここに住み始めた時である。だからまもなく満16 年になる。１６年もたてば「歴史」といってよいだろう。その１６年間には、いろいろな事件・喜怒哀楽が織り込まれているから、物語ともいってよいだろう。
　その庭畑と私（恵美子が参加する部分もあるから「私たち」といったほうがよいかもしれない）とが織りなす物語である。庭畑には、歴史の「痕跡」「足跡」「遺物」が大量に遺されている。まだ１６年だから、それらの跡のほとんどを確認することができる。たとえば、最初のころに作った芝生を７，８年前に別のものにしたが、いまでもその芝生のごく一部が残っているので、歴史の痕跡といえるだろう。巨大化して管理できなくなって伐採したガジマルと金煌マンゴーは、立派な切り株を残しているので、いまだに存在感がある。
　スタート後３０年もすれば、「痕跡」さえ消えるものが増えるので、物語を文章に残しておこうと思う。

　さて、当初の数年間は、試行錯誤期間といってもよいだろう。失敗と成功との比率でいうと、失敗の方が多いだろう。
　庭畑づくりのこだわりとしては、人手を借りずに、自分でやることにあった。だから、失敗も多いが、数少ない成功例が楽しみであり自信となる。その典型は、通路作りだ。上手くいったともいえるし、上手くいってないともいえる。通路として機能しているが、来客は歩きにくそうにする。老いてきた私にとっても、歩きづらい箇所が増えてきている。
　その通路と、庭畑の区画を分ける箇所に植えたタマリュウなどの縁取りは上手くいった例だろう。

　ここで、現在の敷地での歴史の前史をなす私の経験を記しておこう。

１）小中学生のころ　　実家は副業として農業をしていた。米つくり中心だ。その家業の一部を担って働いていた。小学校中学年から中学生までである。だが、父の指示に従っての作業だけで、庭畑つくりの知識と経験は限りなくゼロに近い。

２）南風原新川での畑付き借家での畑体験　　かつて家畜小屋だったところを改築して借家にしたところだが、ちょっとした畑がついていた。全くの素人ハルサー入門だった。通りかかる近所の老人が、「沖縄ではそんな風にはやらないよ」などとアドバイスされる。２年間だったので、収穫にまでいたるのは、ゼロと言ってよいだろう。

３）西原の小波津団地での庭畑体験　２０坪ぐらいの庭畑つくりをした。途中に増築したので、庭畑面積はほんの少しになってしまった。それでも最初の数年間は、きちんと庭畑作業をしたから、初めての本格的取り組みだった。上手くいった記憶だけを並べておこう。この倍ぐらいは失敗だ。

　バナナ　アレカヤシ　オオバナアリアケカズラ　ブーゲンビリア　芝生

　ここで、庭畑づくりの多少の基本だけは会得したといえよう。

４）愛知県名古屋市郊外の赤池の一軒家　３０坪ぐらいの庭畑。かつてはトマト畑だったというだけに、それまでの体験のなかでもっとも良い土だった。

　花木を中心にした植木　楠　なつめ　まゆみ　雪柳　れんぎょう　山吹　ろうばい　つつじ　山茶花・・・など友人たちからいただいた苗木だが、季節を替えて開花する。　タマリュウを植えたのは、この時だ。ニラもたくさん植えた。この二つは、沖縄の現在の庭畑でも、元気よく育っている。

　合間に草花と野菜。　水仙を大量に育てた。沖縄にも持ってきたが、くぐりぬけるべき冬の寒さがないので、開花は難しい。ハーブ育ては、この時がスタートだ。

サガリバナ　連日たくさん開花

2020 年 07 月 03 日

わが庭畑と私　「我が庭畑の自然」随想連載スタート

　わが庭畑との付き合いが１６年になった。私の寿命を考えると、今後もそのくらいの期間の付き合いになると期待しよう。ということで、中間地点報告を書いてみたい。

　現在の私の生活・生き方のなかで庭畑が占める比率は、１０％内外だろう。時間でいうと、一日当たり１時間余りだ。庭畑の空気（風、寒暖）・光（日照）・土・水（雨）、そして植物・動物といった自然、その一環としての私。私も自然のうちだ。

　衣食住生活でいうと、衣は別にして、住・食は庭畑と大きなかかわりがある。建物だけでなく、庭畑も住の一環だからだ。食でいうと、野菜・果物・ハーブ・薬草など、食材としての活躍は大きい。

　ひときわ大きいのは、私の心（精神）にとってであり、巨大だ。産み育てる自然、めぐりゆく自然は、美しさ・新鮮さ・輝きを与えるものだ。いろいろな命が、ここで生まれ育ち、循環している。

生き物ということでいうと、まず植物。大木から小さな木。そのなかに果樹も多い。草花には、ハーブ・野菜・花・観葉植物・グランドカバーといろいろだ。さらに草むしりの相手になる草も多い。

その植物のなかを小動物がいろいろと棲息している。長く悩ませ続けたハブ（主としてヒメハブ）は、対策が功を奏してか、ここ６～７年見かけない。野良猫野良犬の訪問もめったにない。マングースも見なくなった。飛ぶものは変わらず多い。まずコウモリ、そして鳥類が沢山。なんといっても多いのが昆虫。わけても蝶々。蝶愛好家だったら興奮するだろう。そして、ミツバチ・普通の蜂、トンボ・カエル・やもり・トカゲ類・・・。天然記念物もいる。オカヤドカリ（アーマン）だ。ネズミはたまに出会う。

小さな生き物は無数だが、勉強しないとわからないものが多い。

こんな自然には、毎日のように発見がある。開花ニュースも多い。昼間だけでなく、サガリバナ・ドラゴンフルーツ・月下美人のように夜中だけ咲くものもある。名前のわからないものの名前の発見もある。

と同時に、いろいろな創造の試みもする。種まき・新苗植え付け・植え替え・挿し木などもそうだ。剪定のような管理、繁殖し過ぎの草を取ることも重要な作業だ。水やりが必要になることもある。

こんな発見創造も、庭畑をめぐる大切な物語だ。

これから何回になるかわからないが、わが庭畑をめぐって、私の気持ちのおもむくままに、自然の流れで綴っていきたい。これまでの関連テーマでの連載は、一つの植物に焦点をあてて書いたが、これからは、一つのトピックに焦点を絞って書いていくつもりだ。

2020 年 06 月 24 日

最終回　わが庭畑の自慢５５

一年にわたって連載してきたが、このあたりでキリをつけよう。庭畑の次の連載企画は検討準備中。

最後に掲載したかったができなかったものを並べておこう。

シークヮーサー、キンカン、ユズなどの柑橘類。ジャボチカバ、バンシルー、マンゴーなどだ。そしてオオバナアリアケカズラ

バンシルーは、我が家のものは台湾バンシルーで、実がやや大きめだ。ほったらかしだが、年に数十個は収穫できる。感動する程の美味しさではないが、それなりに食べられる。

マンゴーは、樹齢、推定２０年の金煌マンゴーがあり、ある年、巨大な実３００個をつけたが、その後台風被害などもあり、うまくいってなかった。そのうち庭畑面積の２～３割を占めるほど巨大化し、加齢進行中の私には管理しきれなくなることがはっきりしてきたので、大胆に切った。幹回りも大きく、その作業に一週間ぐらい要した。

写真は、マンゴーの切り株

2020 年 06 月 20 日

パッションフルーツ　わが庭畑の自慢５４

育て始めて１０年を超すだろう。一本の苗から、うまくいけば数十個収穫できる。しかも年２回だ。花の美しさはすごい。別名時計草というのは、時計に似ているからだろう。開花して１～２ヶ月で収穫だ。収穫したものの表面にしわが寄ってきたら食べごろ。午後３時ごろ、人工授粉したほうがよい。自家受粉で上手くいくものもあればそうでないものもある。黄色の実と紫色の実がある。

今年初めて、袋掛けをしてみる。効果はまだわからない。

現在３本の苗を育てている。先週一本新苗を植えてみた。おおよそ、４～５年で、苗を更新している。

2020 年 06 月 16 日

バナナ　わが庭畑の自慢５３

１９７０年代後半の小波津団地に住んでいたころから育てている。だが、収穫までになることは多くない。

この地に住んでからは、結構収穫できていたが、他の樹木が大きくなって、日照を確保するのが難しくなって以降、成功率は低い。ところが、久しぶりに実った。放置状態だったので、小さいが。

2020 年 06 月 12 日

ネギ、ニラ、シマラッキョウ　わが庭畑の自慢５２

いずれも我が家定番。手入れ不要に近いのでいい。

ネギは、二十日ねぎを中心に植えている。収穫したら、根だけを再び植えれば、また伸びてくる。再植え付けに適合した種類もある。

昨年、ヤグラネギという面白いものを店頭で見つけて育てている。ねぎのてっぺんから、子どもが出てきて、それを取って植えると、新しいネギとして育てられるのだ。夏になると、出てくるが、今年はまだだ。

ニラは、植えっぱなし状態で、大きくなったら途中で切って収穫している。愛知に住んでいたころの苗を移して育ててもいるが、ここで買った苗もある。もう１０年以上は、新しい苗を植えていない。それほど長い歴史を持っている。数年に一度、植え替えをしている。

シマラッキョウは、８月頃植え、３～５月に収穫し、残りは６月末には掘り上げる。このサイクルで、長年続けている。居酒屋で注文すると、結構な値段だ。生食が美味しい。我が家のものは肥料を与えていないので、市販のものの五分の一ほどの大きさだ。それでも美味しい。

写真は、６月１０日に掘り上げたもの。栄養不足などで小さすぎるので、次は大きくするための作戦を立てる必要がある。

2020 年 06 月 08 日

ライチ(レイシ)　　わが庭畑の自慢５１

とても美味しい。夢中になる人も多い。４月に咲いた花から実が出てきて、６月には入ると色づき始める。食べられるようになったら、すぐに鳥が食べる。鳥との奪い合いになる。とても美味しいので、鳥も必死なのだろう。

高木になりそうなので、剪定をせっせとしている。だが、前年剪定した枝には実がつかない。だから結構難しい。１５年のつきあいでの試行錯誤の御蔭だ。

３本あるが、今年は２本から収穫。

今年は、比較的丁寧に袋掛けをした。４～１０個ぐらいをまとめて、包む。袋はマンゴー用のもの。

結果は、　総計　約５００個　うち約５０個　鳥が食べる　４４０個収穫　未収穫１０個

実が熟すのと、鳥に食べられることとの間は、わずか１～２日。今年は、成功率が史上最高。

右写真は、収穫直前

2020 年 06 月 04 日

アセローラ　わが庭畑の自慢５０

ピタンガに似ているが、酸味が強い。両者の区別を知らない人が多い。

一昨年、一本切って、残り一本だけにしている。それでも、実の半分以上は地面に落ちている。赤くなって、1～2 日で鳥に食べられるか、落ちるかのどちらかだ。わずかながら、生食できる。大量なので、どなたかにジャムにしてはどうかと勧められたが、したことはない。近くの農園では、アセローラ・ワインを造っている。

収穫は、不定期で最近は収穫なし。写真は２０１９年５月末撮影

６月初め撮影のアセローラの木　手前の太い幹はクルチ

2020 年 05 月 31 日

ソテツ　わが庭畑の自慢４９

わが庭畑には数本育てている。私が、庭畑のあちこちで見つけた幼苗を移植したものだ。大きいもので、幹の高さ８０センチほど。４～５月に伸びた新葉の中央あたりから、雄花雌花が出てくるが、我が家のものは雄花ばかりだ。

それにしても、新葉は美しい。しかし、葉は、虫に食べられることが多い。写真は、新葉が出始めた４月上旬に撮影したもの

2020 年 05 月 27 日

月桃（サンニン）　わが庭畑の自慢４８

このあたりには、たくさん自生している。我が家にも自生している。なにもしなくても、種がとんで広がる。４月末から今どきまでは、花の季節。花は抜群に美しい。

このあと、種ができる。葉にしても種にしても薬用効果があるので、私は薬用酒に入れている。冬にはムーチー葉になる。虫よけ効果もあるので、葉を乾燥させて、衣装箱にいれている。

2020 年 05 月 22 日

ハンギング・ヘリクニア　わが庭畑の自慢４７

春から夏にかけて、次々と咲く。いかにも熱帯という印象。

成長は早い。新芽が出たと思ったら、すぐに数メートルの高さになり、花をつけ始める。生育が良すぎるので、どんどんカットしないと大変なことになる。

2020 年 05 月 17 日

ピタンガ　わが庭畑の自慢４６

１０年位前から育て、美味しい実を年数回数百個につけてくれる。だいだい色から赤い色で、甘い味だ。甘味が強いので、現在２本育てており、収穫量を増やす予定。

２日前に大量収穫　約１５０個　出来栄えがよくて美味しい。このあと２～３回は収穫があるといいな、と期待している。

2020 年 05 月 12 日

ティートリー　わが庭畑の自慢４５

植えてから 15 年近くになる。ティートリーのアロマを愛用していたので、当時苗を売っているのを見つけて植えた。当時は、育て方がわからなかった。ウェブにも登場していなかった。そのうち、登場するようになり、湿気を好むらしいことが分かり、植え替えたら、すくすく育ち始めた。

当時は、とても珍しくて、他に育てているのを見なかった。でも、その後、時々生育話を聞くようになった。といっても、実際に育っているのを見たことがあるか、記憶に残っていない。

台風の風に弱くて、なんどか幹を折られた。根元近くから折れたが、すべて新しい枝を出して伸びている。今は５メートル以上の高さになっている。

毎年４月に白い花を大量に咲かせるが、暖かい年は３月に開花することもある。今年は１～３月の少雨と４月の寒さのためか、開花しないまま終わりそうだ。木そのものはすくすく育っている。

2020 年 05 月 08 日

ナゴラン　　わが庭畑の自慢４４

名護で自生していることからの命名のようだ。絶滅危惧種であるが、地元の人たちによる再生の取組みが進んでいる。私も数年前に買った苗をビワの枝に着生させた。今年始めて開花する。一斉に数個が開花した。素朴な可愛い雰囲気をもつ。

2020 年 04 月 30 日

スパテフィルム　わが庭畑の自慢４３

我が家訪問者のどなたかから頂いたもので、植え付けてから１０年以上たつ。少しずつ増えて、株分けし、現在３株になった。白い花が印象的だ。水芭蕉との異同がよくわからない。寒い所の水芭蕉だから、全く異なるだろうが。

2020 年 04 月 26 日

オクラレルカ　わが庭畑の自慢４２

訪問者に苗木を差し上げたお返しにいただいた。お名前を確認せずに交換したから、どなただったか、はっきりしない。植物名は後で知った。アイリスの仲間のようだ。

近年では評判が広がり、あちこちで見かけるようになった。喜如嘉のものが有名だ。

紫色が鮮やかだ。

毎年どんどん殖えていく。毎年、殖え過ぎを大量処分している。

2020 年 04 月 22 日

テイカカズラ　わが庭畑の自慢４１

このところ低温傾向で、例年なら開花するはずだが、まだ咲いてないものがいくつかある。そこで、急登場するのが、テイカカズラ。

我が家の１階から３階にかけての南側は、直射日光を避けるために、つる性植物を伸ばしてきた。最初はシッサスだったが、赤い気根が面白いけど、それほど美しくない。ということで、いろいろと試みてきた。そのなかで、数年以上前に植えたテイカカズラが定着しそうだ。現在のところ、シッサス、ニンニクカズラ、テイカカズラの３本立てだ。

テイカカズラは、この時期に、写真のような白い花を咲かせる。ツルは高さ５メートル以上だが、花は 1～2 センチと可愛らしい。

2020 年 04 月 18 日

ミツバ　　わが庭畑の自慢４０

10 年以上前に畑で育てた。それ以降、毎年種こぼれで育てている。あちこちに自然に育ってくる。ほぼ年中収穫できる。春が多いけど。大きくなると、30 センチ以上になり、花をつけ種をまきちらす。

香りがとてもいい。こんなおいしいものだが、育てている人は少ない。

2020 年 04 月 14 日

アマリリス　わが庭畑の自慢３９

土地の前所有者が植えておいたものが多い。近所にも多いので、20 年ほど前に近隣で流行したのだろうか。植

えっぱなしで、毎年大きな花をたくさん咲かせる。球根が大きくなり過ぎるので、数年に一度植え替えている。
　次々と咲く、赤い花が印象的だ。

2020 年 04 月 10 日

インドナツメ　わが庭畑の自慢３８

　１０年ほど前に購入した苗を植えた。ぐんぐん成長して、今では一人前の樹木になっている。２年前から果実を着け始めた。昨年は１０個ぐらい収穫できたが、今年はゼロだ。開花時に台風でやられたためだろう。

　高さ５メートルぐらいになるが、強剪定が着果のコツということなので、４月に半分以下にする。それでも、その後、半年で元の高さ以上になる。今年は４月１０日に剪定する。

　果実は、青りんごに似ていて、なかなか美味しい。大量収穫になることを期待している。
　右写真は、剪定後

2020 年 04 月 07 日

ブーゲンビリア　わが庭畑の自慢３７

　ここに住み始めて間もないころ、記念植樹したもの。どんどん成長し、一時、３階ベランダまで覆った。高さ１０メートル以上だ。その後、台風などにやられ、低くなったが、今でも５メートル近くの高さだ。赤い色の花、といっても赤いのは、苞（ほう、花びらのようなもの）

で、花は、それに包まれている白いもので、とても小さくて目立たない。

いったん咲き出すと、２ヶ月ほど咲き続ける。花びらがあたり一面に落ちた姿も美しい。落花の後、２ヶ月くらいすると、次の花が咲き始める。一年に３~４回咲く感じだ。開花後、大胆な剪定をすると、よく開花する。

大きくて赤い花のものは外来種だが(左写真)、３階ベランダには、在来種のピンク色のものを鉢植えで育てている（左写真)。

2020 年 04 月 02 日

シャリンバイ　　わが庭畑の自慢３６

自然に生えてきたもの。１０年近く前に気づいたが、いまでは５メートルの高さになっている。３月が開花期だ。車輪のように広がった枝に梅に似た白い花が咲くので、シャリンバイというのだそうだ。

ウチナーグチではテカチというそうだ。あちこちで見かける。染物に使うとの事。

チシャノキと隣り合っているが、いずれ、どちらかを切らなくてはならないとおもうが、シャリンバイの方が美形なので残そうかなと思う。

2020 年 03 月 28 日

ビワ　９９％鳥に食べられる　わが庭畑の自慢３５

苗木を植えてから１０年以上になり、立派に生育している。数年前から収穫し始めた。美味しい。美味しいだけに、ほっておくと鳥に食べられる。そこでここ２～３年袋かけをした。それでも半分は袋を破って鳥に食べら

れる。

今年は袋掛けをしないでいたら、数百個のうち９９％が食べられてしまった。写真の右上に一房が残っている。スーサー（いそひよどり）やシロガシラだろうが、今年はカラスの大群が近くにやってきているので、カラスかもしれない。あるいは夜中にコウモリがとるのかもしれない。

写真に写っている新芽新葉は、食べられた実の後にでてきた。

2020 年 03 月 21 日

崎原さんのすごい自然農　たくさんの塾生

２０日、長年、おつきあいしている崎原さんの農園を二人で訪問した。西原で生活していた４０年前に、保育園の保護者会で知り合いになってからのおつきあい。高校・特別支援学校で農業を教えておられたが、退職後、農園を開く。

無農薬無肥料の畑で多種の野菜を育てておられる。生育のすごさに感心した近辺の畑の主が、どんどん畑を貸してくれるという話。そして、自然農に関心を持つ人たちが塾生になって、学習体験中。集まり過ぎるので、公開募集はしない。口コミだけで集まるという。

実際に拝見してみると、すごい。一見して、こんないい土はないと感じる。原種に近い豆も何種類もたくさん。挿し木で殖やすトマト。にんにく、らっきょう、じゃがいも、たまねぎ、多種のレタス類。にんじん、しまにんじん、・・・並べればきりがない。

穏やかで「可愛い」顔がすてき。会った人はどんどんほれるだろう。なぜか、塾生は女性が多い。遠い東村からをはじめ、沖縄じゅうから集まってくるという。

写真は、順に、崎原さん、しまにんじん（チデークニー）、レタス類、トマト、宮古黒豆

2020 年 03 月 20 日

カクチョウラン　わが庭畑の自慢３４

地面から育ってくる地生ランとしてカクチョウランがある。３～４年前に苗を植えた。昨年から開花し始め、今年は数日前に開花し、立派な花を次々と咲かせている。

日本では種子島以南に分布するという。漢字では鶴頂蘭ということだ。ファイウスともいう。

今、わが庭では、カトレヤが開花の終わりになり、他に１種が開花し始めた。もう一種、待ち焦がれていた名護ランも蕾をつけている。

2020 年 03 月 15 日

春めいてきたわが庭畑　コーヒー開花　レースラベンダー　カクチョウラン　食べられたビワなど

寒暖の変化の激しいこのごろ。我が庭畑は、急に春めいてきた。いろいろと変化

１）コーヒーの開花。例年よりずっと早い。こんなに早いと、収穫開始が８月になりそうな感じ。これから、数か月間、開花が続きそうだ。

蝶が吸蜜をしている。名前が特定できない。図鑑では３～４に絞れるが。まずベニモンアゲハ。毒を持つベニモンアゲハに擬態をするシロオビアゲハの雌のⅡ型、そしてナガサキアゲハなど。　我が家では以前から飛んでいるが、ずっと特定できずにいる。

２）メイフラワーの満開（中左写真）

３）レースラベンダー（中右写真）

４）ビワのほとんどが鳥に食べられる。（下左写真）

毎年、袋掛けするが、それでも食べられるので、今年は袋掛けをしないでいたら、９割がた食べられた。わずかに残っているのが、写っている

５）カクチョウラン（下右写真）　　地生えのラン

2020 年 03 月 14 日

ひはつ（ピパーツ）　わが庭畑の自慢３３

とうがらし、コーレーグースのようなもので、八重山のものが有名だ。最近、薬用効果で人気が出ている。恵美子は、これを原料にした製剤を飲んでいる。我が家のものを収穫した時は、料理に使用している。収穫量が少しずつ増えているので、期待している。

2020 年 03 月 08 日

メイフラワー　わが庭畑の自慢３２

名前のように、５月に咲くのではなくて、ここでは３～４月に咲く。暖かい今年は、３月上旬から咲き始めた。あと数日で満開の気配だ。

ピンクの細かい花が無数咲く。

この木は、１０年以上前にいただいたものを庭植えにしたものだ。毎年、激しく剪定しているが、それでも、高さ２～３メートルのしっかりした木になってきた。

2020 年 03 月 02 日

チャービル（セルフィーユ）　わが庭畑の自慢３１

２月は記録的少雨だった。１日２日と久々

の雨で庭畑の植物は大喜び状態。新芽新葉が本格的に出てくるだろう。

今回はチャービル。パセリの仲間としては、今回紹介するチャービル（セルフィーユ）のほかには、普通のパセリ、イタリアンパセリを育ててきた。私の好みは、チャービルとパセリなので、今はこの二つを育てている。パセリをレストラン料理の飾り物と決め込んで食べない人がいるが、私は大好きだ。この苦みがいい。チャービルも苦みがあるが、きつくないし、香りの素晴らしさに圧倒される。

チャービルは、ハーブ類として苗で売っているし、種も売っている。種をまく程大量には育てないので、苗を１～２本買って植えている。葉を下から取っていけば、一本の苗で半年くらいは収穫を続けられる。

2020 年 02 月 25 日

コリアンダー（パクチー）　わが庭畑の自慢３０

タイ料理定番のハーブ。私も時々シチューなどに使っている。とても美味しくなる。

以前は種から育てたが、それほど必要でないので、今は数本の苗を買ってきて育てている。

香りがいいが、クセがあると感じるのか、この匂いを嫌う人もいる。

写真は、中心茎を収穫した後、伸びてきた脇芽

2020 年 02 月 19 日

ヤリノホクリハラン　わが庭畑の自慢２９

森の下草として、よく見かける。我が家の畑と庭を区切る石垣に自生している。とんできた胞子が定着したものだろう。わが庭にあるシダ類は、オオタニワタ

リが多いが、ヤリノホクリハランも美しいので、殖えることを期待している。

2020 年 02 月 14 日

シュロガヤツリ　　わが庭畑の自慢２８

この周辺では、水が流れているようなところに姿美しく自生している。濱川御嶽近くのせせらぎでもみかける。恵美子が近くで雑草化していたものを拾ってきて植えた。池跡に植え替えたらぐんぐん伸びてくる。繁殖しすぎになっている。

調べてみると、マダガスカル原産の帰化植物で、古代エジプトで紙の原料になったパピルスも仲間だとのこと。シペラスという名前で販売もされているようだ。

細長い茎の先から伸びた葉と花が、猫の大好きな遊び道具になる。しばらく前まで、毎晩のようにこれを切ったものを使って、私が猫と遊んでいた。後片付けが大変なのと、猫たちが遊び飽きてきたので、今はやっていない。

2020 年 02 月 09 日

セイロンベンケイ　わが庭畑の自慢２７

植えた記憶がはっきりしない。自生したかもしれない。大きな葉が土の上に落ちれば、そこから新しいものが出てくる。庭のあちこちで育ち、今が満開。４月まで、開花は続く。

もう一種（下写真）は、植えた記憶がある。もっと派手なものだ。私が冷たくしたためか、少ししか残っていない。

2020 年 02 月 03 日

オオゴマダラ　わが庭畑の自慢２６

１月中旬にたくさんの幼虫がホウライカガミの葉を食べているのを発見。今では、ほぼ年中、この付近を成虫が飛んでいる。

日本最大の蝶として有名。金色のサナギも目立つ。幼虫がそだったホウライカガミから１０メートルぐらいの範囲に移動して、さなぎになる。

左写真は、あちこちに金色のサナギをつけるが、これは、プラスチック籠の底につけたもの。

右写真は、幼虫に葉を食べつくされて残ったホウライカガミの枝

2020 年 01 月 30 日

千年木　わが庭畑の自慢２５

どんどん挿し木して殖やし、土地境界の垣根にした。3階ベランダの夕陽さえぎりにも活用している。大型鉢１０個に育てている。いずれも３~４メートルの高さだ。最近は、殖え過ぎなので、どんどんカットする。間引きしていくと、残された幹が太くなり、葉も長さ 40 センチほどと大きくなり、葉数も増えていく。

台風時に風で倒されることへの対策に苦労していた。ロープでしばったりもした。しかし、大きな鉢に移し替えてからは、その心配もない。高くすると、風で幹が途中で折れる。その方が片付けに手間

がかからない。ということで、以前は50本以上あったベランダのものを、半分以下に減らした。

幹も太く、立派になってきたので、猫が木登りに挑戦している。しかし、途中に枝がないので、登るには不向きで、挑戦をあきらめたようだ。

１~３月が開花の季節。といっても、地味なのだが。

2020年01月25日

ルッコラ　　わが庭畑の自慢２４

１５年近く楽しんでいる。葉を生野菜として食べる。苦みというか辛味が美味しい。野菜サラダに入れると、ドレッシング不要だ。客に出すと、評判がいい。スーパーなどにも出ていないのが不思議に思う。

育て方は簡単。２０度ぐらいまでに気温が下がってから種まき。数か月で収穫できる。根元から順に葉を取ればいい。

そのうち、枝分かれしたら、枝ごととればいい。こうして、根を残していけば、一年以上収穫できる。一年草のはずだが、多年草化する。

上写真は、昨秋種まきしたもの、下写真は、一昨秋に種まきしたもの。葉を下から収穫していったので、茎が長く伸びているように見える。

2020年01月20日

カニステル　わが庭畑の自慢２３

果物が卵に似ているためか、味が卵の黄身に似ているためか、エッグフルーツともいう。１０年ほど前にいただいた小さな苗を植えたが、５年位して初めて着果した。その後、生育もよく、収量も増えてきた。今季は数十個以上着果し、重みで枝が垂れ下がるほどだ。高くなると、収穫しにくくなるので、高さ２メートルぐらいで止めている。

黄色くなると、収穫期だ。収穫してからも、常温完熟させるのに一か月近く必要だ。

栽培量が少ないためか、店頭で見かけることは少ない。そのためか、値段も高い。我が家訪問者には差し上げているが。

2020 年 01 月 13 日

着生ラン　カトレア　わが庭畑の自慢２２

１０年近く前から、洋ランを愛するようになった。といっても、温室を作るほどではない。そこで思いついたのは、着生ランだ。樹木の幹の二股に分かれたところに「着生」させるのだ。

最初に成功したのは、カトレアをクルチ（リュウキュウコクタン）に着生したものだ。毎年、数房～１０房ほど開花する。匂いがいいものは開花期間が短いと教わったが、カトレヤは匂いがいいので、一つの房の開花は、一か月ももたない。でも、多くの房に開花するので、３ヶ月近く楽しめる。写真は開花し始めたカトレア

他に数種が、毎年開花する。全部で十種近く着生させている。冬から春にかけて、何か一つは開花している状態を実現させたい。

2020 年 01 月 11 日

庭畑作業の大きな変化　簡略化へ

わが庭畑も、１５年余り経過した。庭畑作業も大きく変化してきた。減少する私の体力に合わせたものになってきている。そこで、今後の庭畑作業のありようを確認しておこう。

１）新規に植えるものは、年間で０～数本にする。ちなみに、昨年植えたのは、２本だけ（アメイシア、レッドジンジャー）。挿し木で殖やしたのは、ラクティア、モンテスラ。ベランダには、サン・パラソルを植えた。

２）木の高さは５～６メートルに抑える。畑の日当たり確保と作業可能範囲にするため。樹間確保のため、間伐もすすめる。現在９本あるクルチ（リュウキュウコクタン）も５本ぐらいにしようかなと思案中

果樹は、収穫作業のために、高さ２メートルにおさえる。

３）畑の野菜は、ほっといても育つニラ、ラッキョウ、ウリズン豆にとどめる。庭畑では果樹・ハーブ・薬草・観葉植物を中心にする。要するに日常の手入れが不要なもの。

野菜は、ベランダでのプランター栽培中心を継続する。

４）枝葉など、庭畑ででてきた有機物を堆肥化することはずっとやってきた。３年前にした木片チップの大量投入以降、庭畑への購入堆肥などの投入も大幅減少だ。

ということで、一日当たり８０～１００分くらいの庭畑作業でやっていけそうだ。その半分以上は、草取り・清掃・収穫だ。

それにしても、今年のウリズン豆はどうしたことだろう。いまだに収穫できる。一日に１０個以上だ。例年は１１～１２月初めで終わりなのに。暖冬のためか。今年は、金煌マンゴーを切った根元に植えて、堆肥を加えただけだが。

2020 年 01 月 08 日

コモンバジル　ホーリーバジル　わが庭畑の自慢２１

これも栽培は簡単。というか、繁殖し過ぎて困っているのが、わが庭の実情。というのは、種こぼれで、どんどん殖える。大きくなると、すぐに開花し、種を落とすので、繁殖しすぎ状態になるのだ。

コモンバジル以外に、ホーリーバジル（セイクリッドバジル）も、恵美子が育てている。これまたどんどん殖える。かつてアフリカンブルーバジルも育てていた。最近では、近所の養蜂家が育てて、ハチミツにしている。大変高級なものになるらしい。

いずれも料理に使っている。

2019 年 12 月 31 日

ワサビナ　わが庭畑の自慢２０

数年前から常時育て、食卓を飾っている。カラシナ（シマナー）に似ているが、辛味・苦みがもっと強い。ルッコラ以上だ。

だから、ドレッシングなしで、サラダにして美味しく食べられる。ワサビとは違うが、あれほどきつい味ではない。

スーパーなどで店頭に並ぶのは見たことがない。苗店で、まれに苗が売られている。私は、苗店で苗を買うか、種から育てる。苗からだと、１～２ヶ月で大きくなる。写真は３か月後。下葉から収穫すれば、一年近く大丈夫だ。

ルッコラと並んで愛用している。

2019 年 12 月 23 日

オオタニワタリ　　わが庭畑の自慢１９

ここに住み始めたころ、近隣の方に一本頂いた。胞子を飛ばして繁殖する。我が庭畑には、生育したもので２０~３０本以上。赤ちゃんのようなものは数えきれない。

栄養状態がいいと、直径１～２メートルと巨大化する。でも、肥料などは不要だ。

飛んだ胞子から出てくるので、いろんなところから出てくる。岩のくぼみ、通路のくぼみ、さらには蘇鉄の幹の横側からも出てくる。今では、繁殖制限している。

小さなものを鉢植えにして室内に置いていても、立派に育っていく。

2019 年 12 月 15 日

サンセベリア　わが庭畑の自慢１８

地下茎でどんどん増える。我が庭畑には無数に生育している。何百から千以上という数だろう。マイナスイオンを出すというので、人気がある。日陰でも日あたりでも育つし、多少水が切れてきても、何とか生きている。強い植物だ。

これもいただき物を殖やした。花も咲くが、美しくはない（最後の写真）。

部屋の中でも育つ。半年ほど、観察を続けたことがある。出てきた新葉は２～３ヶ月で、高さ５０センチくらいなる。すると、次の新葉が出てくる。３～４枚になる。その後に花がついた茎が出てきて、白い花が咲くという段取りのようだ。すると、地下茎が伸びて、次のものが出てくる。

別名　トラノオラン

2019 年 12 月 07 日

クロトン　　わが庭畑の自慢１７

沖縄の家にはどこにでもあって、珍しくもない植物だ。我が家にも、四種が地植え鉢植えで元気よく育っている。強力で、強風にも潮風にもびくともしない。一年に 30 センチ前後伸び、一番大きいのは、高さ 3~4 メートルになる。繁殖しすぎ

るので、剪定で抑えている。バリ島で見た物は、沖縄の倍ぐらい大きい。沖縄のものは多少「繊細さ」を感じるが、バリ島は、「でかい」そのものだった。

１０年以上前のもらい物を殖やしたものだ。挿し木が簡単だ。緑・黄・茶などの葉の色、葉の模様、大判や細長などの葉の形、葉の縮れの有無など、実に多彩だ。手入れがほぼ不要なのもいい。

2019 年 11 月 28 日

オリズルラン　　わが庭畑の自慢１６

タマリュウの他にグランドカバーとして活用しているのはオリズルラン。グランドカバーでなくても、花壇にいろどりを添えてくれる。美しいので、鉢植え、寄せ植えに活用する人も多い。

中央付近から出てくるランナーというものが、着地すれば、また新たな苗が育つので、繁殖は簡単。

育て方は、簡単。何もしなくても育つという感じだ。グランドカバーにもしたいが、踏みつけるわけにはいかない。

2019 年 11 月 18 日

通路とタマリュウ　わが庭畑の自慢１５

わが庭畑は、勾配が急で、表土が数センチしかなく、すぐに硬いクチャ層がある。加えて、石灰岩があちらこちらから沢山でてくる。住み始めて一年は、硬い土を掘り返して、石を取り出し、その石を通路予定地に並べる作業にかなりの時間を使った。段差がきつい所には石を積み重ねて、階段をつくったりもした。

その石にモルタルをかけて固め、通路にした。通路で仕切って、畑の区画割をする。区画割した畑と通路の境目にタマリュウを植えた。タマリュウは、愛知に住んでいた庭から、引っ越し荷物といっしょに運んだ。強い植物なので、一週間ぐらいの「荷物暮らし」をものともせず、元気だった。

そのタマリュウを、通路に沿って点状に植えた。２，３年すると、それが線状になった。さらに２，３年すると面状になり、さらにそれが広がり、縁取り以上のグランドカバーとしての役割を果たしている。

管理は、かなり手抜きでも大丈夫だ。日当たり日陰はどちらでもＯＫ。水を切らして枯れるのは、めったにない。肥料も不要。他の雑草を防ぐ役割も果たす。こんなに有益なのに、沖縄で見かけることは少ない。

2019 年 11 月 06 日

ブラジル・ホウレンソウ　タリヌム・フルティコスム　わが庭畑の自慢１４

夏に入ったころ、恵美子が買ってきて、初めて食べた。結構いける。恵美子が、挿し木をしたところ、どんどん伸びる。伸びた所を切って食べる。無制限に伸びる感じだ。涼しくなったこのごろ、ようやく伸びるスピードが緩やかになった感じだ。

それにしても、名称不明、正体不明。インターネットで調べるが、よくはわからない。買ってきた時に、「ブラジルホウレンソウ」という名前がついていた、というので、それを手掛かりに調べる。我が家の客のお一人に質問されたときにも、答えようがなかった。

やっと、少しは分かった。本名は、タリヌム・フルティコスム。地域によって、いろいろな名がある。出てきた名前を並べると、〇〇〇ほうれん草というのが多い。ブラジル、アフリカ、フィリピン、フロリダ、セイロンなどと、地域名をつけて「ほうれん草」と呼ぶわけだ。ほかには、シビランという名前もある。

スベリヒユの仲間のようだ。ほうれん草とは全く異なるが、シュウ酸を多く含む点が共通している。結石つくりを促進するシュウ酸だ。食べ過ぎに注意である。

2019 年 10 月 30 日

コーヒーの木　わが庭畑の自慢１３

１５年近く前に、近所の人から頂いた苗。最初はうまくいかなかったが、コーヒー園で育て方を習ってから、上手くいき始めた。毎年秋に収穫し、１００％自家製コーヒーを楽しんできた。ようやく今年は、一か月分を自家製にするまでになった。年中自家製になるまでには、あと５年ぐらいかかりそうだ。

現在、実をつける成木３本。幼木５本だ。

写真は、上から、成木(赤い実が写っている)、幼木（種こぼれから発芽、３年目)、収穫した豆の皮をむいた生豆。このあと焙煎に移る。

2019 年 10 月 23 日

ドラゴンフルーツ　わが庭畑の自慢１２

近隣の人にもらった幹？茎？をそのまま植えて殖やしたもの。１５個ぐらいの大型鉢を、日当たりが良すぎる？屋上に置いて育てるが、手入れはゼロに近い。時々雑草を取り、傷んだ枝を取り、春には堆肥を追加する。水やりなどはしない。

６~１１月に収穫。鳥に先を越されることが多い。年間合計数十個の収穫。表面だけでなく、中味も赤くてとても美味しい。１０月２３日本日、今年最後の収穫。台風などのあとだが、１４個収穫。小ぶりで見かけは悪いが、食べれば、結構いける。

2019 年 10 月 13 日

ホウライカガミ　わが庭畑の自慢１１

７，８年前に、オオゴマダラの食草だというので、植えてみた。順調に育ち、途中で地面に触れる箇所で、また根付いた。

２，３年前に初めて、オオゴマダラが産卵した。今年は沢山産卵し、沢山の幼虫が、葉の半分ほど食べてしまった。おかげで、沢山の成虫が羽化し、今では毎日、２~５羽が飛び回っている。

それに刺激されたのか、ホウライカガミの花蜜が美味しいのか、他にも多種の蝶が集まっている。カバマダラ、ツマベニチョウ、シロオビアゲハ、リュウキュウミスジ、リュウキュウアサギマダラなど

だけど、彼らが大量に集まる季節は、もう終わったようだ。来春が待ち遠しい。

2019 年 10 月 03 日

ミルクブッシュ　わが庭畑自慢１０

面白い木だ。どなたかから頂いたものを地植えした。今や高さ３~４メートル。挿し木で殖やしたら、ほぼ確実に根付いて、立派に成長する。現在、総計３本育てている。茎葉の形が面白い。途中で切ると、真っ白なミルクが出てくる。それが名前の由来。

はじめは名称不明のままだったが、ブログ読者から名前を教えてもらった。ありがたい。

写真上左は、枝葉。どれが枝でどれが葉なのか、よくわからない。
写真右は、地面から立ち上がって、玄関通路欄干にもたれかかるようにしている姿。下の方に、幹が見えるが、普通の樹木同様、茶色の幹になっている。幹回りは２０センチ近い。

2019 年 09 月 24 日

トックリヤシモドキ　わが庭畑自慢９

ヤシの中で、私が一番好きなもの。ここに住み始めの頃、是非植えようと考えていて、苗店で発見。

植えた当初は、高さ５０センチぐらいだったが、着実に成長し、１５年近く経った今、高さ３～４メートルになった。姿だけでなく、幹が美しいのがいい。

葉は常時７~8枚ついている。２～３ヶ月に一枚ずつ新しい葉が出てくる。2年半ぐらいすると、葉は黄色になり、落ちる。手入れ不要。

2019 年 09 月 18 日

ルッコラ　わが庭畑自慢８

玉城生活を始めた当初から楽しんでいる。苦みがあるが、それが美味しい。他の野菜と混ぜてサラダにすると、ドレッシング不要だ。ハーブに分類されている。

年中育つ。種まきは、気温が下がってからだ。一年草だが、わが庭では、一年を超えることも多い。

2019 年 09 月 09 日

雲南百薬　わが庭畑自慢７

ツルムラサキに似ているが、少し小さめで、葉に少しだけ縮れがある。ツルムラサキほどではないが、成長は早い。根に近い所で、茎にできたムカゴ（右写真）も食べられる。ムカゴを植えれば、葉が出てきて、大きく育ってくる。名の通り、薬草効果がありそうだが、何に効くのかは、気にしていないから、知らない。

大きくなると、大量の花が出てくるが、美しくはない。粘り気があるが、味噌汁に入れたり、茹でたりして食べる。ツルムラサキも食べるが、庭畑に自生しているという感じである。

2019 年 09 月 03 日

モロヘイヤ　わが庭畑自慢６

８月頃からこぼれ種から、新芽が出てきて、９月から１１月にかけて収穫が自然の流れだ。でも、それだと、収穫が遅れるので、今年は５月から買ってきた苗を植えている。６月末から収穫。伸びてきた枝を切って、葉を収穫すれば、何度でも可能だ。花や種は毒を持つので、開花前に収穫する必要がある。種が出来たら、来年用にまいておけばよい。

これまた、みそ汁の具やおひたしを始め、なんでも使える。

2019 年 08 月 26 日

ウリズンマメ（リュウキュウシカクマメ）　わが庭畑の自慢５

今回からしばらくは野菜の話

まずウリズンマメ（リュウキュウシカクマメ）。１０年ほど前は、シカクマメという名で呼ばれていた。長いさやを、途中で切ると四角だからだろう。最近になって、商品名としてのウリズン豆という名で呼ばれるようになった。

もともとは一年草のつもりだったろうが、我が家では多年草化している。わが畑のものは、５年ぐらい前に植えたものだが、毎年７月ごろ新芽が伸びてくる。８月終わりから収穫開始だが、最初は少ない。９月になると増え、１０月頃には一日３０個と多すぎることもある。１２月上旬まで続く。

収穫を早めるため、今年は買ってきた苗を５月末に植えた。７月中旬から収穫開始だ。

本格的収穫開始は、８月後半以降だが、収穫しすぎに困ることさえある。つるがたくさん伸びて、収穫したい「莢（さや）」が隠れてしまう事がしばしばだ。毎年、収穫時期を逃した沢山の莢がでる。できた種を植えればいいのだが、それだと、殖え過ぎなのだ。

豆類は強いと感じる。ゆでたり、野菜いためにしたり、みそ汁に入れたり、クセがないので、何でも使える。

2019 年 08 月 20 日

ハイビスカス（アカバナ）類　わが庭畑の自慢４

まずフウリンブッソウゲ（左写真）。玄関脇（高さ４メートル以上）、庭（高さ 3～4 メートル）、ベランダ（鉢植え、
高さ２メートル）に計３本。花から長く垂れ下がったおしべがフウリンのように見える印象的な花。もともとの沖縄に自生していたものと、どこかに書いてあったのを覚えている。とても強い。生育もどんどんする。強い剪定が欠かせない。蝶が吸蜜に群がる。

右写真の正式名称は不明（後にハイビスカス・フラミンゴと判明）。花びらが二段になったように見えるので、我が家では「二段花ハイビスカス」と名付けている。（後に大きくてとても美しい花だ。成長もぐんぐん伸びるので、どんどん剪定する。玄関脇と庭に一本ずつ育てている。いずれも高さ３～４メートルだ。

下写真２枚は、園芸品種。庭畑で育てている。いずれも、白に近い色で大輪だ。

2019 年 08 月 12 日

タイワンレンギョウ（デュランタ、ハリマツリ）

我が庭畑自慢３

紫色の花をいっぱいつけて美しい。

１０年以上前に、苗を植える。上に伸びる枝は、2～3 メートルの高さで剪定している。だから高さは 2～3 メートルで、横に大きく広げている。枝は伸びると垂れ下がり、枝先に花をいっぱいつける。春夏は常時開花している感じだ。成長が早いので、月に一回剪定するほどだ。

種こぼれだと思うが、新しい苗が出てきたので、植えた。それも大きくなって開花している。

同じ仲間で、黄色い葉、黄色い花をつけるもの（中右写真）を、キバタイワンレンギョウ、あるいはキバナタイワンレンギョウといっている。これも同様に大きく育っている。台風で２度も、根元から折れたが、1～2 年で同じ高さまで回復する。これも３本育てている。

いずれも、この地に合っているのか、とてもよく生育している。

2019 年 08 月 06 日

サガリバナ（サワフジ）　わが庭畑の自慢２

美しい花に魅せられ、育てたいと思っていた 10 年前、苗店で発見。一鉢買ってきたが、ラッキーなことに苗が

２本あり、別々の場所に植えた。すくすくと伸びる。一年に１メートル近くという感じだ。側枝をどんどん剪定して、上へ上へと伸ばし、現在、高さ５～７メートルになった。鑑賞しやすい位置に花の房が付くようになる。

開花は、５月末から始まる。１１月までは咲いているが、１２月まで咲くことが多い。ある年は正月まで咲いていた。房になって垂れ下がったものが、連日開花する。今年は、房が数十本ぶら下がっている。

夕方、膨らみ始め、夜８時ごろ開花する。朝まで開花状態を保ち、朝になると、少しずつ地面に落ちる。落ちた花も美しい。開花に気づくのは、地面に落ちた花からであることが多い。夜はライトを当てないと、気づかないからだ。でも、最近は、室内からも開花に気づくことの出来る位置に開花するようになった。

種というか、実というか、直径3～4 センチの球が地上に落ち、新しい芽を出すようになった。もう植える場所がないので、どなたかに差し上げるしかない。

2019 年 07 月 29 日

ラクティア（マハラジャ）　わが庭畑の自慢（ブログ「オープンガーデン」）１

新連載だ。自慢話で申し訳ないが。

９月に、ここ南城市玉城での生活満１５年を迎える。そのなかでいろいろなことをしてきたが、私にとって最も楽しいことの一つは、庭畑つくりだ。自慢したいことも増えてきたので、連載で自慢話をしていこう。

自慢するなら、南城市オープンガーデンに参加するのが、一つの機会だ。だけど、オープンしている会場を見ると、「わが庭畑では、少々無理かな」と思う。それに駐車スペースが全く不足だ。

そこで、ブログ「オープンガーデン」をすることにする。

まずは、私がほれこんでいる植物をいくつか紹介していくことから始めよう。最初は、ユーフォルビア・ラクティア。通販では「マハラジャ」という名称が使われている。

苗を譲っていただいたかたは、「サンゴサボテン」と呼んでおられた。我が家の土地を購入する際に、お世話していただいた不動産屋の社長さんだ。オープンガーデンで、あるお宅を訪問したら、当主がその不動産屋のネーム入りの服を着ておられたので、お尋ねしてわかった。１０年ぶりほどの再会だった。そこで、話が弾んで、いただくことになった

のだ。ラクティアは、長い間どこにも見かけなかったが、最近、一か所で見つけた。

最初は、一体なにものかが不明だった。ウェブで調べまくって、やっとたどりついた。そして、しばらくすると、マハラジャという商品名で、高額で売られていることが分かった。数千円以上なのだ。その商品と、我が家の物を比べると、十倍以上の大きさなので、数万円以上の価値があるのだろうか。となると、いただいたお宅の本体は、数十万円もしそうな印象だ。

ウェブ情報では、挿し木等で殖やすのは、素人では難しいと書かれている。しかし、やってみた。これまで１０本近くやったが、なぜかすべて成功している。いくつか、さしあげたので、現在、我が家で生育中は、６本だ。一年に１０～２０センチ伸びる。あちこちにどんどん伸びる。

奇妙な形で話題になりそうだが、濃緑のとげとげの枝（葉？）がニョキニョキと伸びる感じが、面白く美しい。

３番目の写真は挿し木したもの。大きくなったので、最近、より大きな鉢に移植。切り取ってから半年もしないのに、根が大量。これよりずっと小さいものが、ネットでは数千円だ。

2019 年 07 月 11 日

ドラゴンフルーツ

今年の我が家産の果物は不作に近い。マンゴー・ライチもだめだ。ドラゴンフルーツだけは、収穫にこぎつけた。６月初めから収穫可能だったが、鳥に先を越された（写真は、食べられた跡）。屋上に植えているものだから、雨が多かった

今年は、屋上に出てチェックする間隔が開きすぎたためだ。
最後の写真は、水分が多いために、開いてしまったものだが、結果的に初収穫となった。
今日食べるが、美味しさは例年通りだ。

2019 年 05 月 21 日

夏野菜へ　シマラッキョウ　ニラ　ネギ　サラダ菜　チマサンチェ　シソ　などなど

いよいよ夏めいてきた。我が庭畑ベランダの野菜も夏バージョンへと移行中

シマラッキョウ　　収穫真っ最中　生で食べるのがいい。居酒屋では、結構な値段がするが、我が家では食べ放題　１～２ヶ月すると、掘り出して、来年向けに植え付ける　１０年余り、このサイクルだ。
ニラ　　ニラもよく食べるが、余り気味。これまた１０年以上も続く苗。なかには、愛知の家から持ってきたものもあるから２０年近くの歴史がある。
カンダバー　これは、数年前に「グシチャンイイナ」という茎葉を食べる専用のもの。植えっぱなしでＯＫ
セロリ　　全部収穫しなくてはならないが、少しずつ使っているので、まだ残っている
ミツバ　　こぼれ種で殖えるので、年中収穫可能状態だ
エンサイ　これまた、湿気のある所に、植えてあるので、放置したまま、大きくなった苗から収穫を続ける
パセリ　　これは、買った苗を長く使い続けている
ネギ　　買ってきた二十日ねぎを、収穫した残りのねぎを植えて、継続させる。普通のねぎも植えている。

最近不思議なねぎの苗を買って植えた。「やぐらねぎ」（右写真）
ネギ坊主に出来た種を植えるのが普通だが、これはネギ坊主の代わりに、葉のてっぺんに新苗ができ、それを植えるというものだ。現在、植えてみたところ

サラダ菜（上左写真）　チマサンチェ　我が家愛好の定番　苗を買ってきて、植える
ツルムラサキ　自然放置状態で畑のあちこちに出来ている。生産過剰気味。
雲南百薬　ツルムラの仲間のようで、同様に育てている。ムカゴを植えて殖やしている。これまた生産過剰気味。

モロヘイヤ　これまた我が家の定番。こぼれ種でも育てるが、発芽時期が遅いので、最近、買ってきた苗を植えて、６月からの収穫ができるように育苗中
ウリズン豆　これまた我が家の定番。８月末から、うんざりするほど収穫する。１２月前半まで。多年草化している。７月になると、新芽がでてくるはず。それでは収穫が遅くなるので、５月に買ってきた新苗を植えた。
シソ（上右写真）　これまた、最近植えたが、虫に食われるので、二度目の苗を植えた。

余談だが、近くの種苗店の「ふたば」は、レジをする人も、専門的知識が豊富でいろいろと教えてくれるので、うれしい。

2019 年 04 月 30 日

植物を殖やす　挿し木　こぼれ種　株分け

庭畑作業の一つは、植物を殖やすことである。殖やすうえで簡単なのは、苗・種を買ってきて植えることだ。そうではなく、すでに庭畑に生きているものをもとに殖やすことについて書こう。

そのなかで、一番簡単なのは、種こぼれから殖やすのだ。これは、無作為であり、自然に殖えるのを待つのだ。こぼれた種から発芽し成長し、しっかりし始めたら、鉢に移植したり、育て上げる場所に移植する。

これで代表的なのは、コーヒーの木、ピタンガだ。いず

れもすでに何本か育てている。鉢で育てたものを差し上げたこともある。畑を見ていて、新苗が出てきたのを発見するわけだ。胞子が飛んで殖えるオオタニワタリなどは無限大に増える勢いだ。おかげで、我が庭畑には数十も育っている。だから、踏みつけたりしても、残念に思わなくなってしまった。

野菜ではミツバがすごい（前ページ写真）。１０年以上前に植えたものが、種こぼれで自然に殖え続けている。上等なミツバが食卓を飾っている。年中収穫できるが、春がとくに多い。

こぼれ種には、希望しないのに新苗が出てくる時もある。代表はギンネムとアカギ。隣の森に大木がたくさんあるので、仕方がない。見つけ次第、抜いている。

有用なのだが、わが庭畑にはあり余っているので、抜いているものもある。リュウキュウコクタン（クルチ）、ハリツルマサキ（マッコウ）がそうだ。

株分けもある。植物が大きくなる途中に脇から新芽を出してくるのだ。リュウゼツランが代表的。もう４～５株になった。

地下茎を移植して殖やすことができるのもある。サンセベリア（トラノヲラン）がそうだ。これは、殖え過ぎではあるが。

もう一つは、挿し木だ。いろいろとできる。沖縄では簡単にできるものが多い。アカバナ・ハイビスカスの類がそうだ。もっとも簡単で、大量に増やしたのが千年木。

ラクティアもやっている（左写真）。ウェブサイトではマハラジャの名前で、一本５０００円前後で販売されているのが不思議なくらいだ。これまで４～５本したが、１００％成功。ダイギンリュウなども簡単だ。

今、新たにやっているのが、金のなる木、モンテスラだ。我が庭畑の観葉植物の大部分は、挿し木によって殖やせるだろう。

2019 年 04 月 26 日

ピタンガ大収穫

今春の果樹は、全体として見ると、不作だ。昨年秋の台風被害も大きいが、隔年現象かもしれない。昨年大収穫だったビワ・インドナツメ・ライチが、今年はゼロに近い。

そのなかにあって、大奮闘はピタンガ。中旬から収穫

が始まり、２２日がピークだった。２２日は、３００個近く収穫。その後も一日あたり２０～５０個の収穫。一昨年が大収穫で、昨年は少な目だったので、今年は隔年現象の当たり年なのだろうか。一昨年の記憶では、くりかえし収穫ピークが訪れる。

大収穫なので、近隣などに差し上げている。

かなり美味しい。同時にアセロラも収穫開始だが、ずっと美味しい。慣れない人には、両者の見分けは難しい。ピタンガの方が甘味が強い。橙色になった後、赤みが出てきたら収穫。赤みが増し、表面が柔らかくなったら食べごろ。保存がきかないから、食べごろは１～２日だ。

落ちた実から新しい苗が出てくる。現在、主力の一本以外に２本育てている。そろそろ実をつけるだろうと思うが、来年かもしれない。

上写真は、ピタンガとアセロラを並べて撮影。左のピタンガは、カボチャのような凹凸がある。

2019 年 04 月 11 日

わが庭畑の将来大きくなりそうな木、そして低木　「自然と人間、そして私」１５

（前回の続き）将来大きくなりそうなもの

マキ（チャーギ）　どこからか種が飛んできて、発芽。現在５０センチぐらいだ。

ゲッケイジュ　１０年以上前に植えたが、日陰になってきたので、昨年移植した。

我が畑庭を森・ジャングルにしないためには、間引きが毎年一本ぐらい必要だ。木と木との距離が近づきすぎないようにしている。

これらの剪定や間引きが我が庭畑作業の中心の一つだ。地面の草取りも大変だが、草取りよりも剪定・間引きの方が楽しい。なぜだろうか。

低木はたくさんあるので、一部の紹介にとどめよう。

マッコウ（写真）

庭で一番多い。多分数十株あるだろう。種こぼれで自生しており、あちこちに次々と芽を出してくる。この土地に合っているのだろう。大きくなると、間引き剪定する。

サンダンカ

　最初は購入した苗を植えた。背が高いものと低いものだ。こぼれ種から殖えてくる。現在１０本ほどになる。美しい花を長期間見せてくれる。試しに白花も育てている。

オーストラリアン・ローズマリー
　似ているが、ローズマリーではない。樹形と可愛い花が美しい。現在高さ１・５メートルほど

リュウゼツラン（写真）
　隣家と植物交換で植えて、もう１０年以上になる。しっかり育ち、根元から子株が出てくるので、株分けもした。葉が美しいので好まれる。

コーヒーノキ　我が家の定番

ゲッキツ　自生しているので、あちこちに育つ。葉がかわいい。

2019 年 04 月 04 日

わが庭畑の「中くらい」の大きさの樹木　「自然と人間、そして私」１４

　わが庭畑の「中くらい」の大きさの樹木を紹介しよう。２～５メートルぐらいの高さだ。
バンシルー
アセローラ　２本あったが、そのうち１本を昨年切り倒した。収穫は一本で十分な量だ。
ピタンガ３本　そのうち一本は収穫のため高さを２メートルで抑えている。他は、目下生育中
ハイビスカス２本
フウリンブッソウゲ２本
　この４本いずれも３～４メートルの高さで、花を長期にわたって、大量に咲かせてくれる。ハイビスカスは他にもある。

クチナシ
メイフラワー
ホワイトサポテ２本
インドナツメ　現在は４メートルを越すが、大胆な剪定をして、半分ぐらいの高さにするのが、収穫の秘訣。
ティートリー　高さ６～７メートルだったが、昨年の台風で、幹が折れた。折れたのは３～４回目ぐらいか。また、回復するだろう。
　字ページ写真は、ティートリーの根元付近。何回も折れた痕跡とそこから吹きだしてきた新枝がわかる。

ミルクブッシュ　２メートルを越して樹木らしくなってきたが、枝葉を見ると多肉植物のようだ。挿し木をしたら、立派に根付き成長している。

コルディリネの仲間　千年木の仲間　２種１０本以上ある。
マッサン（ドラセナの仲間）　挿し木で殖やしたので、１０本ほどある
マルギナタ（ドラセナの仲間）　挿し木で殖やしたので、これも１０本余りある
他にも、クロトンをはじめとして、垣根めいたものとしていろいろな観葉植物を植えている。ソングオブインディアというのが、一番繁殖している。繁殖力旺盛で、どんどん剪定整枝する。

2019 年 03 月 28 日

我が敷地内の大きな樹木　「自然と人間、そして私」１３

数年前のブログ記事に、敷地内樹木の幹の太さを測り、大きなものを選んで掲載したことがある。その時のトップ群にはガジュマルと金煌マンゴーもあったが、両方とも大きくなり過ぎて管理できないので、切り倒した。

昨年切り倒す前に、外国からの来客が、わが庭畑を評して、ジャングルと名付けた。ガジュマルとマンゴーを切ってから、ようやくジャングルから庭畑に戻ったようだ。(写真は、３階ベランダから写した庭畑のほぼ全景)

現在のトップは、チシャノキ。だが、オオイタビの締め殺しに合い、昨年の台風で枝が折れて低くなり、現在は７～８メートル。もう一本高かったのは、ブーゲンビリアだったが、これも剪定して、現在は６～７メートルだ。

この二つを追い越しそうな勢いなのは、２本のサガリバナ。５月末から年末まで、美しい花を夜８時ごろから朝まで咲かせる。

ヤシ類も高い。マニラヤシ、トックリヤシモドキ、アレカヤシ。高いだけでなく、姿が美しい。とくに、玄関への通路脇にあるトックリヤシモドキは、自慢の樹木だ。この樹を植えることは長年の夢だった。この家を建ててまもなく、苗木を見つけて植えた。当初は高さ１メートルぐらいだったが、現在は４メートルほどになっている。

他に３～５メートルの高さになっているものには、次のものがある。
ライチ３本
クルチ（リュウキュウコクタン）９本

この２種は、土地の前所有者が植えたが、以下は、私が植えたものだ。
ビワ２本　せっせと剪定して、２メートル余りに抑える作業を頻繁にしている。
タイワンレンギョウ（デュランタ）２本　美しい紫の花が印象的なので、今、挿し木で殖やすことに挑戦中。
キバナタイワンレンギョウ３本　台風で２度も幹が折れたが、一年もしないうちに旧に復する。
カニステル　収穫のために２～３メートルにおさえているが、放っておけば大きくなりそうだ。
千年木４０～５０本　　挿し木でどんどん増えるので、敷地境界の垣根の役目を果たしている。ベランダの夕陽さえぎりなどにも活用している。
（写真は、我が家玄関付近）

2019 年 03 月 21 日

亜熱帯雨林の我が敷地内外の樹木　「自然と人間、そして私」１２

我が敷地を取り巻いているのは森だ。とくに東隣の墓地は５００坪以上の広大な敷地で、自然に近い状態が保たれ、亜熱帯雨林の様相を呈している。我が家の北方向には、広大な森があるが、そのミニ版といった感じだ。北方向の森は、グスクロードの下方になる。ヤンバルの森に近い状態だ。ガマがたくさんあり、沖縄戦時、ここに避難した住民は多い。

ここあたりの森とヤンバルの森との違いは、土にある。ヤンバルは国頭マージで酸性土。このあたりは、島尻マージまたはクチャ・ジャーガルでアルカリ性土だ。だから、ドングリを落とすシイ・カシ類、あるいはつつじ・椿類は育てるのが難しい。久米島でいただいた大きなドングリをつけるオキナワウラジロガシのドングリを、我が畑に植えてみたが、発芽して１メートルぐらいの高さまで伸びるが、それ以上は無理だった。ヒカゲヘゴも失敗した。

もし酸性土を好むものがあれば、鹿沼土やピートモスなどを入れる必要がある。我が家では、コーヒーをそうした方法で育てている。地植えから鉢に移植したジャボチカバもそうしている。

森で取り囲まれているわが庭畑には、隣の森に自生する樹木の種が飛来し発芽する。代表的なものは、ガジュマル、アカギ、ギンネムだ。ガジュマルなどは、屋根のようなところから芽を出し「こんなところにも育つのか」と驚くことがある。実を食べた鳥の糞のなかの種が発芽するようだ。他にも、わが庭畑で育っている自生種の樹木をあげると、チシャノキ、シャリンバイ、ゲッキツ、ソテツなどがある。

それらの樹木の中でも大きいものには、キジムナーが暮らしていそうだ。ガジュマルが代表だろう。我が家にはないが、隣の森に育っている大きな樹木を並べてみよう。

アコウ（ウスク）、ギョボク、ハゼノキ、クロヨナ、オオバギ、タブノキ、シマグワ、モクマオウ、カシワバゴムノキ。このあたりなら、加えてクヮーデ―サーなどがあってもよいが、なぜか周辺にはない。海岸近くまで行くと、大きなユウナなどが目立つ。

ツルが巨大になって、他の木を締め殺しにするのは、オオイタビだ。ノアサガオも木をよじのぼって、木をおおい、いっぱいの花をつける。

これらの樹木の高さは、５～１０メートル以上だ。おかげで、台風時の強風を和らげてくれる。

2019 年 03 月 14 日

授粉　苦戦話　果物育て３　「自然と人間、そして私」１１

６）授粉

果樹には授粉が不可欠だが、そこで苦労するものがある。通常は、虫が授粉してくれる。でも、それだけでは不十分なので、人工授粉させなくてはならないものもある。パッションフルーツは、我が家でたくさん収穫するが、毎日午後 3 時ごろ、筆か耳かきなどでの授粉作業が欠かせない。

パッションフルーツによっては、別の種類の間での授粉が必要なものもある。これは、まだ成功していない。パッションフルーツは、紫色や黄色が多いが、それ以外のものもあり、異種間人工授粉が必要だと、苗店で教えられたので、試してみようと思っている。

同じように、ブルーベリー、ホワイトサポテ、グアバは、異種間授粉が必要とのことだ。ブルーベリーは数種類やってみたが、苗そのものがうまく育たないので、あきらめ気味の現在だ。ホワイトサポテは、高さに 2 メートルになる木があるが、複数種必要というので、昨年、もう一本植えてみた。うまくいくことを願っている。グアバは試したことがない。

７）苦戦話

以上の他にも、いろいろと手がかかるものがある。たとえば、マンゴーのようにビニールハウスが必要なものがあるが、マンゴー育ては断念の方向だ。

パッションフルーツのように、つるで伸びるもののために、畑にロープを張る必要があるものがある。

収穫時期になって、虫や鳥に先に食べられてしまうものがある。食べられる直前に収穫しなくてはならない。といっても、早く収穫するとおいしくない。

毎年激しい取り合いになるのが、ライチとビワだ。

果樹本体が虫にやられてしまうこともある。カミキリムシにやられたシークワーサーが代表例だ。収穫できるほど大きくなったときにやられてしまった。近隣の農家の話だと、昭和 30 年代に、このあたりでもシークワーサーを栽培していたが、カミキリムシにやられて栽培を断念したことがあったそうだ。

台風の際の潮風でやられてしまうものもある。数年間育てて、ようやく収穫かと思った今年、潮風でダメになったレモンがある。

台風の風で倒されるのはバナナ。3 年ぐらい前、台風で倒れたものをそのまま埋めたら、そこから育って、収穫したという例もある。

豊作だった翌年は不作だという隔年現象を示すものも多い。ピタンガがそうだ。

ピタンガとアセローラはそっくりだが、アセローラは酸っぱすぎてダメだという人もいる。

カニステル（エッグトリー）が苦手な人もいるが、我が家では、年々収穫が増えている。

肥料をどうするか、という点はよくわからないことが多い。一応、油粕などを混合した固形有機肥料とか牛糞鶏糞を混ぜた市販堆肥を与えている。たくさん与えているわけでなく、わが庭畑で出る枝葉などを根元に与えるのが中心だ。

2019 年 03 月 07 日

果物育て２　マンゴー　日当たり　剪定　「自然と人間、そして私」１０

前回２月２８日記事の続き

３）店頭に並ぶような美味しくて食べたくなるもの、たとえばマンゴーは難しい。プロ農家がおおいに苦労して育てて販売にまでいきついているものを、素人が上手くいくことは、最高の「運」というしかないだろう。普通のアップルマンゴーだと、雨除けもあってビニールハウスをつくり、中に授粉のための虫を放つ。そして、剪定に精を出す。だから、管理が大変だ。後継者不足で断念する農家も見かける。

我が家の前所有者が植えた金煌マンゴーは、ビニールハウスが不要ということで、手入れができない私に合った種類だった。一度大量に収穫して、たくさんの人に差し上げた。その年の後も何度か収穫できたが、少なかった。今年こそはという年には、台風でほぼ全滅した。そのうち管理できないほどに巨大化し、まわりの植物の生育を妨害するほどになった。そして、毎年していた剪定も、年を経るにしたがって、私の身体では不能になることが目に見えてきたので、2018 年ついに切り倒した。大きな幹なので、根元から１メートルぐらいで切り倒し、そこを切り株ベンチにしようと目論んでいる。でも、そこにも新芽が出てきている。

４）日当たりは重要

マンゴーを切り倒した後、日当たりがよくなった植物が生き生きし始めた。ライチなども大きくなると、日当たりが悪い枝には実がつかない。だから、剪定は欠かせない。

逆に、コーヒーのように日陰で育つものもあるので、配置を工夫する。

５）剪定は重要

果物の本を見ると、剪定に割かれたページ数がとても多い。どれだけ収穫できるかは剪定にかかっているほどのものもある。木を痛めつけて、「子孫を残さなくては」と思わせるために剪定するものらしい。

剪定で苦労する一つは、ライチ。実のなる芽は、一年以上前についているので、剪定は１年以上前にする必要がある。といっても、素人の私にはよくわからないから、伸びすぎた枝について、木全体の半分だけ，交互に剪定している。収穫は一年おきにできるという隔年現象があるので、木ごとに剪定する年を交互にしてもいる。現在３本あるので、おかげで、毎年１~2 本で収穫を楽しんでいる。

10 年近く前に植えたインドナツメが大きくなり、花を咲かせ，2017 年には数個の実をつけた。２０１８年は、実が見当たらなかったので、１月終わりに剪定したら、隠れていた実がいくつもでてきた。食べてみると、結構いける。これはいい、と喜んだ。

本には、強い剪定を４月にすると書かれているので、高さ２メートル足らずの所で大胆な剪定をした。２０１８年の夏には盛んに開花したので、期待していたが、１０月の台風で、花や蕾が飛ばされてしまい、２０１９年春の収穫は期待できそうにない。

剪定のもう一つの理由は、収穫など管理をしやすくするためだ。2 メートルを越すと、脚立を使っても、収穫は大変だ。数年前、ライチの収穫の際、枝に登ったが、梅雨時の雨で、足を滑らせ、整骨院で手当をしてもらったことがある。それ以降、できる限り樹高２メートル以下に抑えている。

ビワもそうで、枝を水平に広げている。中心幹を切る摘芯をしたが、ビワはさらに摘蕾・摘果も必要だ。袋掛けもしたが、袋を破って鳥が食べにくる。

2019 年 02 月 28 日

果物育て１　在来種　酸性土　「自然と人間、そして私」９

わが庭畑には果樹をけっこう沢山植えた。育て方を教えてもらったり、本で学んだりしたが、無手勝流でやってきたことの方が多いだろう。だから、失敗の方が多いだろう。採算を考えない趣味の園芸だからできることだ。果樹はまさに自然と人間との共同の物語だ。そして、我が畑の果樹は私自身の物語でもある。
その体験を書き連ねていこう。

１）在来種が育てやすいはずだが、振り返ってみると意外に少ない。代表的なものとして、パパイヤ、バナナ、シーカ―サーなど。他に、ヤマモモ、リュウキュウバライチゴも試みたが、失敗。

近隣でよく見かけるものなので、作りやすいと思うのだが、意外に上手くいかないことが多かった。パパイヤでいうと、成功率１０％以下だろう。買ってきた苗よりも、野菜くずから芽を出したものの方が成功率は高いが、それでも成功率１０％を超すだろうか。上手くいったと思ったら、雄だったり、台風にやられたり、原因不明で倒れたりする。でも、時々、立派に育つこともある。その意外性を喜ぶというわけだ。

近所の畑で栽培しているのを見ても、成功率５０％内外で、素人の私がやるのだからと、自分で慰めている。

２）土が重要なのはいうまでもない。肥沃かどうか、砂質か粘土質かなどということもあるが、酸性かアルカリ性かが、最大の決め手になることが多い。この地は、ジャーガル質でアルカリ性だ。だから、国頭マージの北部でよく育つものは難しいことがある。アルカリ性の土というのは、日本ではめったにない土なので、むしろ、この土地に合うものの方が少ないといってよいくらいだ。

だから酸性を好むものの場合は、鹿沼土やピートモスなど酸性が強いものを入れて植える。あるいはそれらを主体にした鉢に植える。

それでてきめんに成功したのは、コーヒーだ（写真は、コーヒーの新苗）。コーヒーは果物とは言いにくいが。鹿沼土やピートモスを中心の土に植え替えたら、劇的に元気よくなり、実もつけ始めた。といっても、実をつけているのは現在３本で、コーヒー自給率は２～３％だ。さらに今、こぼれた実から発芽したものを数本を植えている。そして、挿し木を一本育て始めた。それら全体を合わせて何年かすると、自

給率５０％を超すだろうかと、捕らぬ狸の皮算用をしている。

他に、ジャボチカバは、鹿沼土を中心にした鉢で育てている。他にも、アボガド、ブルーベリーなども鉢植えでやったが、成功したことはない。

ライチも酸性を好むので、根元に鹿沼土やピートモスを置いている。その効果なのかどうかははっきりしないが、一応収穫できている。隔年現象はあるが。

2019 年 01 月 22 日

減少した庭畑作業の再開へ　果樹事情

１月になって庭畑作業時間が激減したが、ようやく再開モードに入ってきた。体調変化に加えて PM2.5 の多さが影響している。私の喘息の原因には、PM2.5 の多さと冷えがある。ということで、いやおうなしに、庭畑に出る時間が激減したのだ。

この時期は、北西風にのってやってくる PM2.5 が例年通り多い。寒さも pm2.5 も３月いっぱいは要警戒期だ。だから、私の天気予報チェックの中心は、pm2.5 と温度になる。

昨年９月末から１０月にかけての台風は、我が庭畑にも強い影響を与えた。台風後、潮風にやられて木の葉が落ちるのはよくあるが、一か月もすれば、新葉が出てきて回復する。ブーゲンビリアが代表的で、今花盛りになってきている。でも回復しないものもある。多分、枯死したようだ。レモンがそうだ。実をつけそうになるほど大きくなったのに残念だ。

今、別の果樹の苗を植えようと考えている。今期、不作の果樹も多い。台風のためもあろうが、隔年現象でもあろう。インドナツメがそうだ。昨年想定外の収穫に喜んだが、今年は実を確認できていない。

ビワも実をつけているが、大量収穫の昨年の反動のためか、少ない。この後の期待はライチだ。

野菜は、台風後植えたものが収穫時期だ。葉野菜を作り過ぎた。訪問客のお土産にしている。

長期的には、観葉植物園つくり、果樹園つくりをすすめているここ数年だ。

写真は、キヌサヤの花